



DAIHATSU

01999-B5258

e-HIJET CARGO e-ATRAI

取扱説明書(抜粋版)

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。

ダイハツ取扱説明書アプリのご案内

iPhone 用



App Store
からダウンロード

Android™ 用



Google Play
で手に入れよう

スマートフォンでご覧いただけるアプリをご提供しています。
ビジュアルから各部の使い方がわかるなど便利な機能を搭載しています。

- アプリケーションは iPhone または Android でご利用いただけます。
- Apple、Apple のロゴ、iPhone は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴは、Google LLC の商標または登録商標です。

本書は安全に関する情報、万一の場合に必要な情報を抜粋した取扱説明書です。
詳しい取り扱い情報は、スマートフォンでご覧いただける「ダイハツ取扱説明書アプリ」、
または「取扱説明書（詳細版）」に記載しています。
お車に乗られる際には、「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」も
併せてお読みください。

▼取扱説明書（詳細版）のご案内

ダイハツ工業株式会社ホームページにて、取扱説明書（詳細版）を電子データ形式で
ご提供しています。

取扱説明書の提供ページで「e-HIJET CARGO」または「e-ATRAI」を選択し、閲覧してください。

取扱説明書の提供ページ

<https://www.daihatsu.co.jp/service/torisetu/index.htm>

なお、取扱説明書（詳細版）の紙書籍をご用意しています。

ご購入を希望される方は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ご愛車のために

お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。

- 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
- 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
- ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

本書の内容について

- お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
- ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、
その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

	イラスト目次	イラストから検索
1	安全・安心のために	お客様に必ずお読みいただきたいこと
2	EV システム	充電に関する情報など
3	計器の見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
4	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
5	運転	運転に必要な操作やアドバイス
6	オーディオ	オーディオの使い方など
7	室内装備・機能	室内装備の使い方など
8	お手入れのしかた	お車のお手入れ・メンテナンスの方法
9	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
10	車両情報	お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

知っておいていただきたいこと

不正改造について

- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
 - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・電装品・無線機の取り付け・取り外し
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては P. 4 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

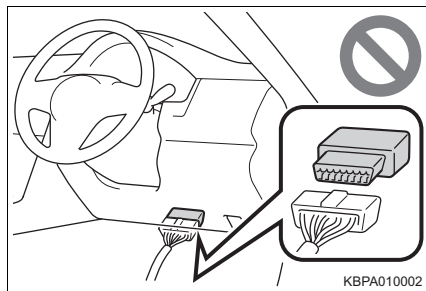
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

ダイハツ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してダイハツは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。ダイハツに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDRデータの情報開示

次の場合を除き、ダイハツはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EV システム
- スマートアシスト
- VSC
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の実装に関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

高電圧部位に貼り付けられている記号について

ESU（電力供給ユニット）などの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼り付けられている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味	記号	意味
	危険であることを示しています。		手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。		高温部位であることを示しています。

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



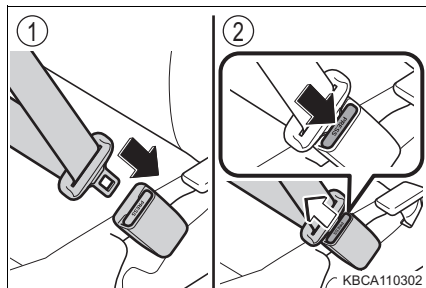
注意

お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

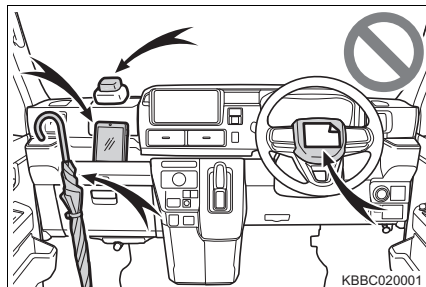
➡: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

➡: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘: “してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”
という意味です。

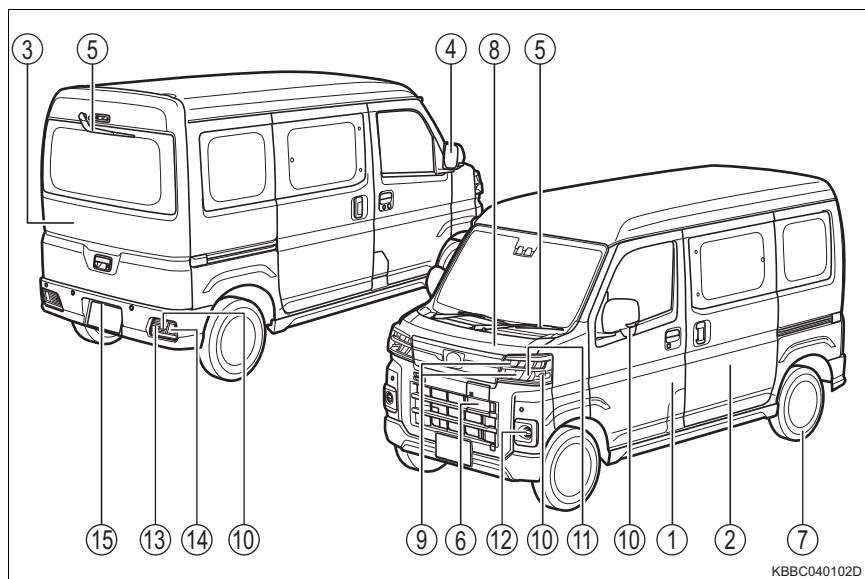


知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト目次

外観



KBBC040102D

- ① ドアP. 58
 - 施錠／解錠 P. 56, 58
 - ドアガラスの開閉
 - キーでの施錠／解錠 P. 175
 - 警告メッセージ P. 150
- ② スライドドアP. 59
 - 施錠／解錠P. 59
 - ドアガラスの開閉
 - スライドドアの開閉
 - パワースライドドアの開閉★
 - 警告メッセージ P. 150
- ③ バックドアP. 64
 - 施錠／解錠 P. 56, 64
 - 警告メッセージ P. 150

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

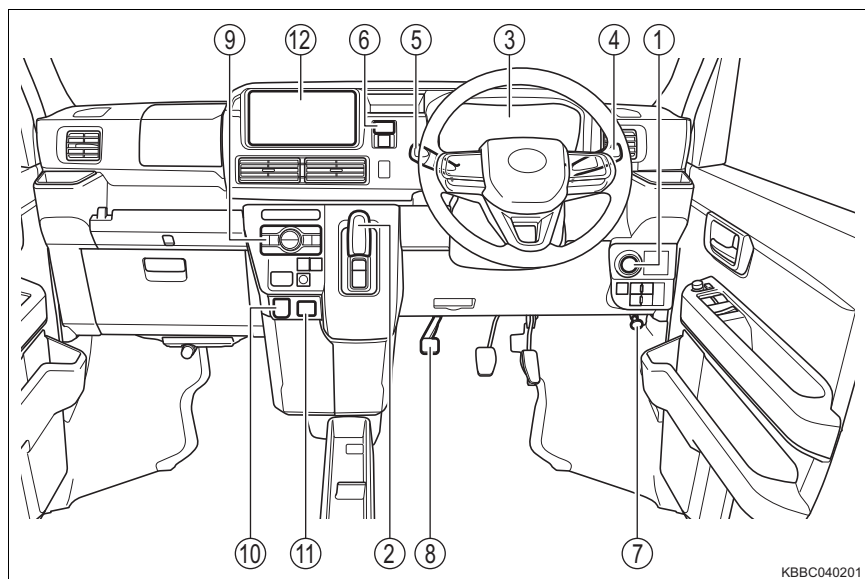
④ ドアミラー	P. 70
鏡面の角度調整	
ミラーの格納	
⑤ ワイパー	P. 83, 84
冬季の注意	
ワイパーゴムの交換	
⑥ 充電ポート	P. 33
充電方法	
⑦ タイヤ	P. 126
サイズ・空気圧	P. 183
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P. 112
点検・ローテーション	P. 126
パンク時の対処	P. 167
⑧ ボンネット	P. 125
開け方	
オーバーヒート時の対処	P. 178

走行にかかわる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 133, ワット数：P. 183)

⑨ ヘッドランプ	P. 81
⑩ 方向指示灯	P. 80
⑪ 車幅灯	P. 81
⑫ フロントフォグランプ★	
⑬ 後退灯	
シフトポジションを R にする	P. 79
⑭ 尾灯	P. 81
⑮ 番号灯	P. 81

インストルメントパネル



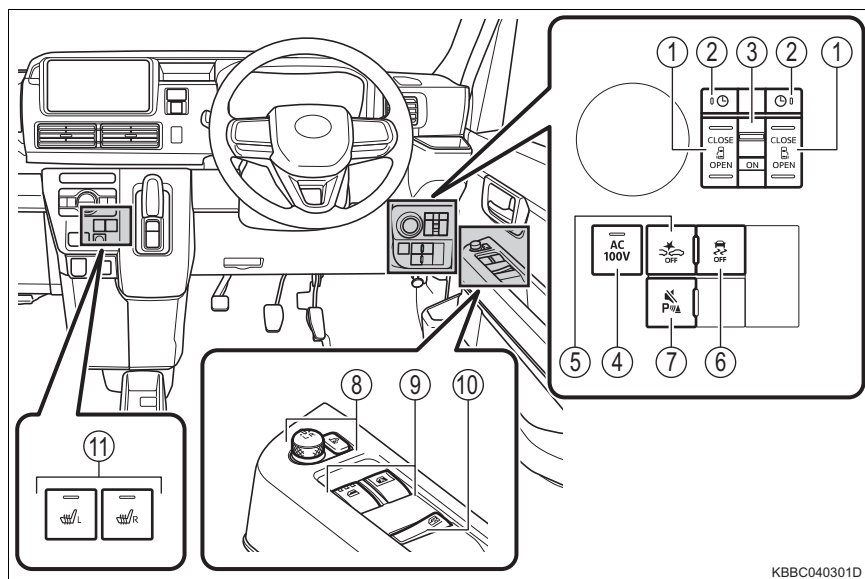
- ① パワースイッチP. 77
 - EV システムの始動・モード切り替えP. 77
 - EV システムの緊急停止 P. 145
 - EV システムが始動できないときの対処 P. 174
 - 警告メッセージ P. 150
- ② シフトレバーP. 79
 - シフトポジションの切り替えP. 79
 - けん引時の注意 P. 147
- ③ メーターP. 51
 - 見方・明るさの調整
 - 警告灯／表示灯P. 48
 - 警告灯点灯時の対処 P. 148
 - TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイP. 52
 - 表示内容P. 52
 - 警告メッセージ表示時の対処 P. 150

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

④ 方向指示レバー	P. 80
ランプスイッチ	P. 81
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など	P. 81
フロントフォグランプ★	
⑤ ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 83, 84
使い方	P. 83, 84
ウォッシャー液の補充	P. 126
⑥ 非常点滅灯スイッチ	
⑦ ボンネット解除レバー	
⑧ パーキングブレーキ	P. 81
かける・解除する	P. 81
冬季の注意	P. 112
警告灯・警告メッセージ	P. 148, 150
⑨ エアコン	P. 116
操作方法	
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）	
⑩ アクセサリーソケット	
⑪ USB ソケット.....	P. 120
⑫ オーディオ★※	

※ 純正ナビゲーションシステムは、付属の取扱説明書を参照してください。

スイッチ類



KBBC040301D

スイッチの配置は、グレードなどで異なります。

① パワースライドドアスイッチ★

② ウェルカムオープン予約スイッチ★

③ パワースライドドアメインスイッチ★

④ AC100V スイッチ

⑤ スマートアシスト OFF スイッチ P. 86

⑥ VSC・TRC OFF スイッチ

⑦ コーナーセンサーブザー OFF スイッチ

⑧ ドアミラースイッチ★

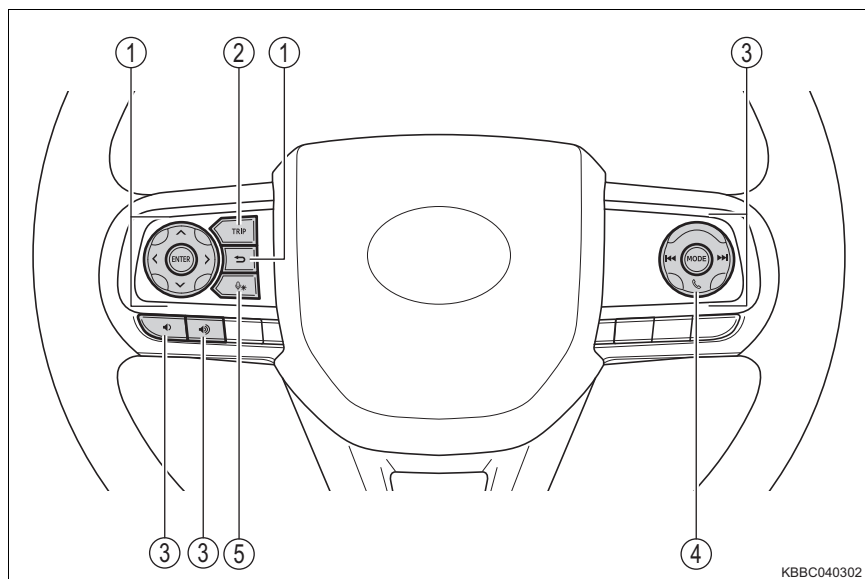
⑨ パワーウィンドウスイッチ

⑩ ウィンドウロックスイッチ P. 70

⑪ シートヒータースイッチ

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

ステアリングスイッチ

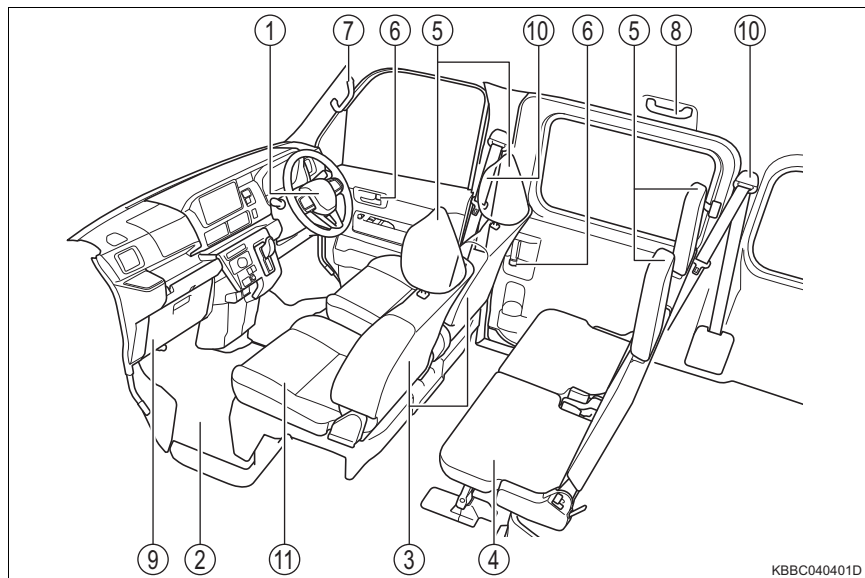


ステアリングスイッチの配置は、グレードなどで異なります。

- ① メーター操作スイッチP. 53
- ② TRIP スイッチP. 53
- ③ オーディオ操作スイッチ★※
- ④ 電話スイッチ★※
- ⑤ トークスイッチ★※

※ 装着されているオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

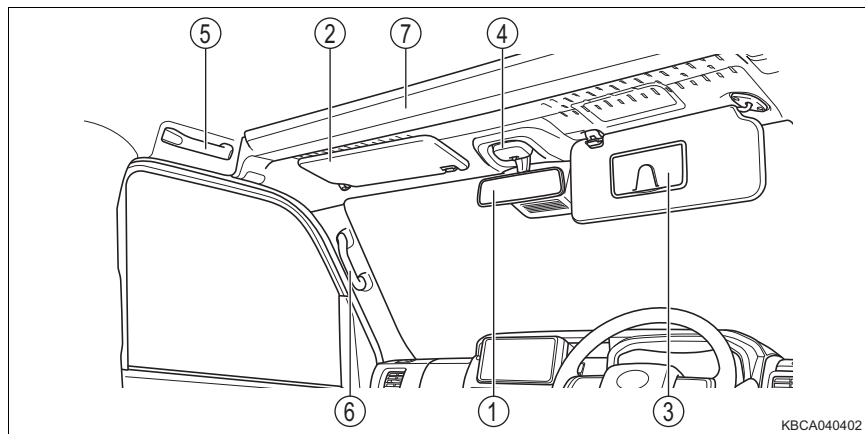
室内



KBBC040401D

- ① SRSエアバッグ P. 21
- ② フロアマット P. 16
- ③ フロントシート P. 65
- ④ リヤシート★ P. 66
- ⑤ ヘッドレスト★ P. 66
- ⑥ ロックボタン／ロックレバー P. 58, 59
- ⑦ 乗降グリップ P. 120
- ⑧ アシストグリップ P. 120
- ⑨ グローブボックス
- ⑩ シートベルト P. 18
- ⑪ 点検口 P. 124

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。



- ① インナーミラー P. 68
- ② サンバイザー※ P. 120
- ③ バニティミラー★
- ④ ルームランプ
- ⑤ アシストグリップ P. 120
- ⑥ 乗降グリップ P. 120
- ⑦ オーバーヘッドシェルフ P. 119

※ 助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けてはいけないということを示しています。ただし、このお車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。(→ P. 26)



ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 16

安全なドライブのために 17

シートベルト 18

SRS エアバッグ 21

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 23

チャイルドシート 24

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

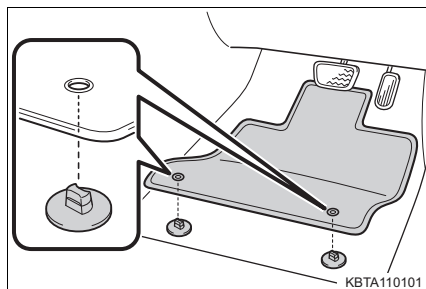
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

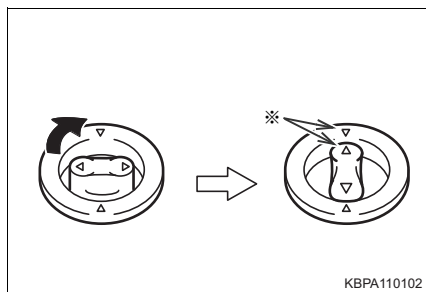
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

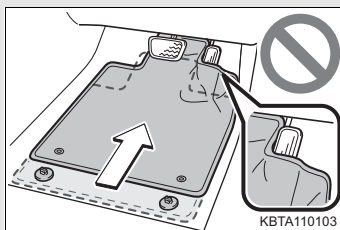
お守りいただかないと、フロアマットがすれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- EVシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

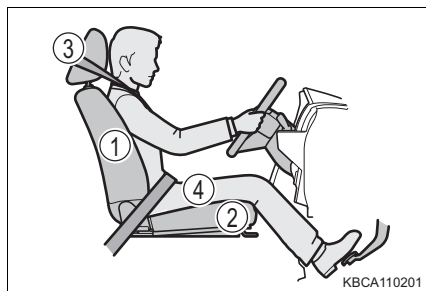


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
- ② ペダルをしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
- ③ 分離式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 66）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 18）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 18）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 24）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。

ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。

また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

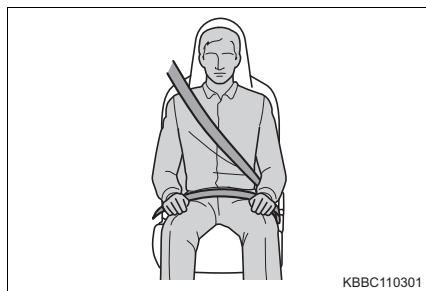
●肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩から外れないようにしてください。

●腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

●背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

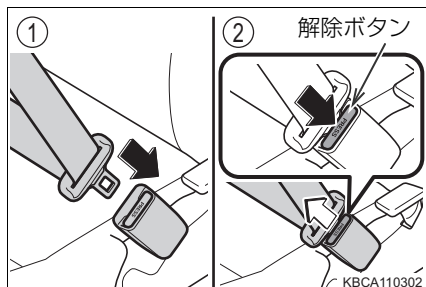
●ねじれないようにする



着け方・外し方

①ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに差し込む

②ベルトを解除するには、解除ボタンを押す
ベルトは、自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがいないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。



■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。

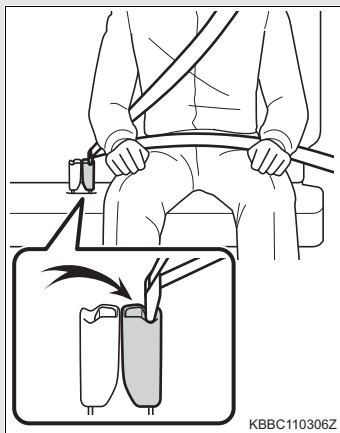
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまは後席★に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- 後席★のシートベルトを着用するときは、体に近いバックルを使用する



■ お子さまのシートベルトの使い方

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 24)
- シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 18)

警告

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 18)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→ P. 30

■ シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

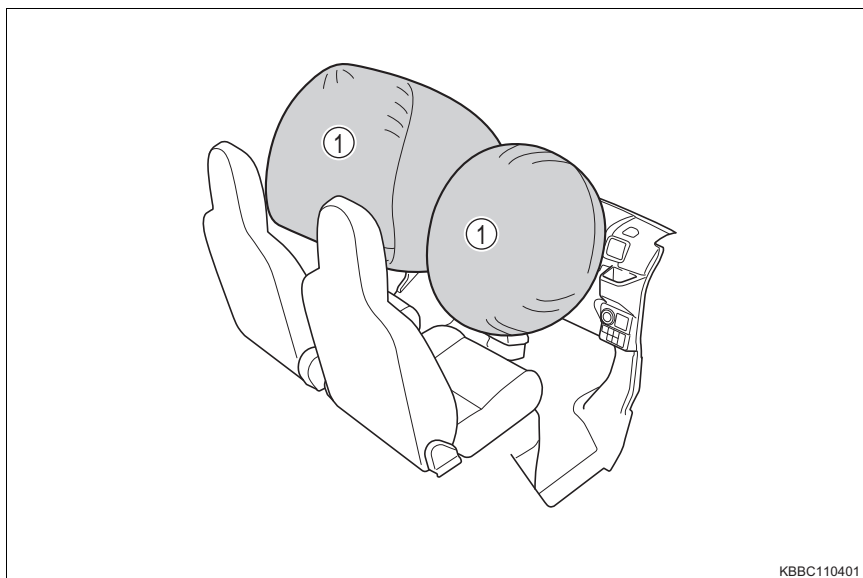
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



KBBC110401

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

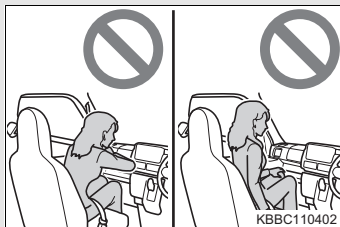
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

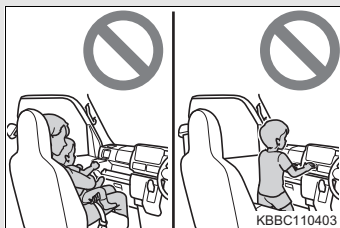
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席★に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 24)
- シートのふちに座ったり、ダッシュボードにもたれかかりたりしない



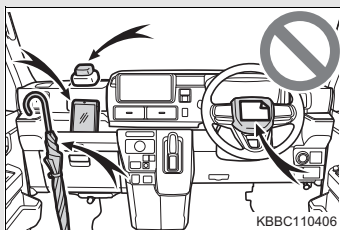
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

■ 改造・廃棄について

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

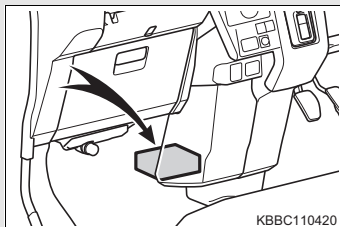
- SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・インストルメントパネル内の SRS エアバッグセンサー周辺の修理・取り外し・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

⚠ 警告

■エアバッグセンサーについて

インストルメントパネル内に SRS エアバッグのセンサーが装着されていますので、次のことをお守りください。お守りいただかないと、SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- エアバッグセンサーおよびその周辺を蹴ったり、強い衝撃を与えない
- エアバッグセンサーおよびその周辺に水などをかけない
- エアバッグセンサーを取り外さない



1

安全・安心のために

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 24)
- 運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席★に乘せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター★・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 70)を使用してください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・ドアやシート・アームレスト★など、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 24 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート★に取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 27)

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN (ECE) R44※の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0： 10kg まで

グループ 0⁺： 13kg まで

グループ I： 9 ～ 18kg

グループ II： 15 ～ 25kg

グループ III： 22 ～ 36kg

※ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

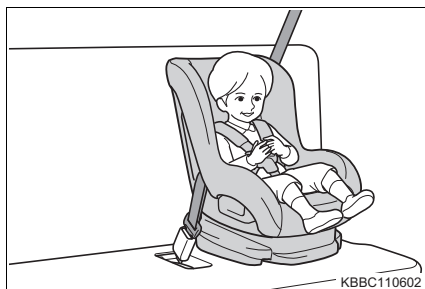
▶ベビーシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当



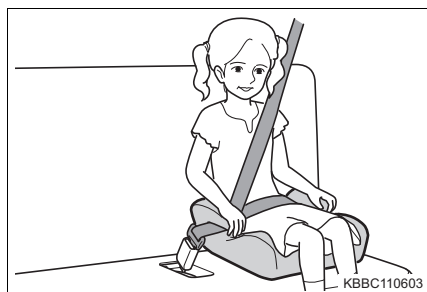
▶チャイルドシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0⁺、I に相当



▶ジュニアシート

UN (ECE) R44 基準のグループ II、III に相当



⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ダイハツでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシート★に取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシート★に適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 27）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

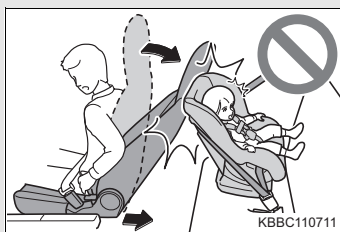
- 助手席にチャイルドシートを取り付けしないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けてはいけないことを示しています。ただし、このお車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。



■ チャイルドシートを使用するとき

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシート★に取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシート★に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 28）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

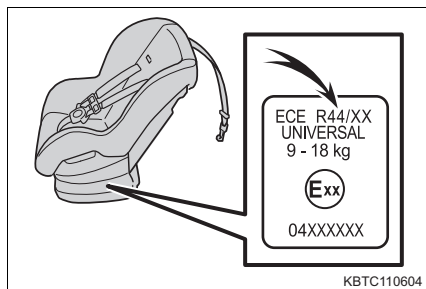
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶ 法規番号の表示例

UN（ECE）R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



※¹ UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

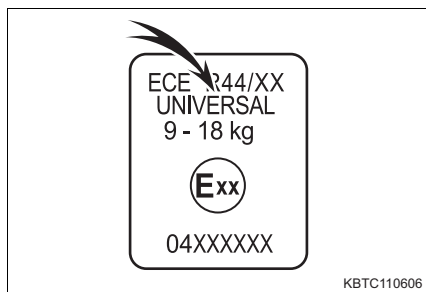
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリを確認する

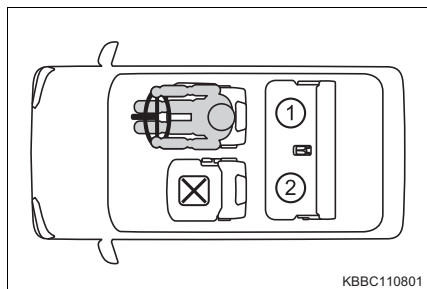
チャイルドシートのカテゴリが次のどのカテゴリに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル
「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル
「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド
「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック
「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1	U ※2
② ※1	X ※2



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。

※1 分離式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。

※2 ベンチタイプ：チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置		
シート位置の番号	①	②
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有
ベルト固定の推奨チャイルドシートに適する着座位置（有／無）	無	無
i-Size 着座位置（有／無）	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

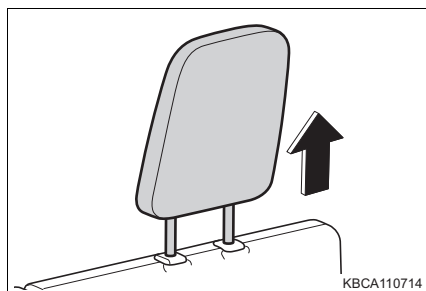
■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

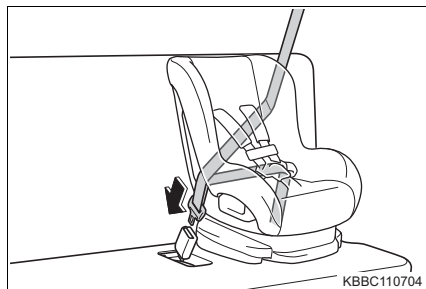
お手持ちのチャイルドシートの情報が表の中にある場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 28)

- ① 分離式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストをい
ちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。(→ P. 66)



- ② チャイルドシートにシートベルトを取り付け、
プレートバックルに“カチッ”と音がするまで
差し込み、ベルトがねじれていないようにする
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シート
ベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてく
ださい。



- ③ 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

2-1. EV システムについて

EV システムの注意 …………… 32

2-2. 充電について

充電に関する装備について … 33

普通充電ケーブルについて … 35

接続可能な

外部電源について …………… 38

充電の前に知っておいて

いただきたいこと …………… 39

普通充電のしかた …………… 40

急速充電・V2H 充電／

V2H 給電のしかた …………… 43

充電中に

使用できる機能について … 45

2-1. EV システムについて

EV システムの注意



知識

■ 適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

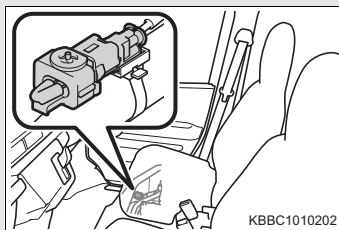
⚠ 警告

■ 高電圧・高温について

この車両は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取り外し・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位に触れないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- インターロックプラグが運転席下の点検口内に設置してあります。インターロックプラグは絶対に触れないでください。インターロックプラグは、ダイハツサービス工場での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対に触れない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対に触れない
- 液体の付着や漏れがある場合は絶対に触れない

駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあります。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

- 駆動用電池の電解液が漏れている場合は、車両に近付かない

万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気が発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあります。

- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあります。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 4 輪が接地した状態でけん引しない

駆動モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあります。（→ P. 147）

- お車の下の路面などを確認し、液体の漏れ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があるため、できるだけ早く車両から離れる
この場合は、ダイハツサービス工場に状況を連絡するときに併せてお伝えください。
軽度な事故であっても、駆動用電池や周辺部位が損傷している可能性がありますので、事故にあった場合は、ダイハツサービス工場での駆動用電池の点検を受けてください

⚠ 警告

■ 駆動用電池について

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取り外された駆動用電池は事故防止のため、ダイハツサービス工場を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取り外さないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタに触れると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、ダイハツサービス工場で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

- 車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。

床下に駆動用電池の液漏れや損傷が見られる場合、絶対に車両に触れず、ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。

また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用電池が損傷している可能性がありますので、車両床下に衝撃を受けた場合には、ダイハツサービス工場で駆動用電池の点検を受けてください。

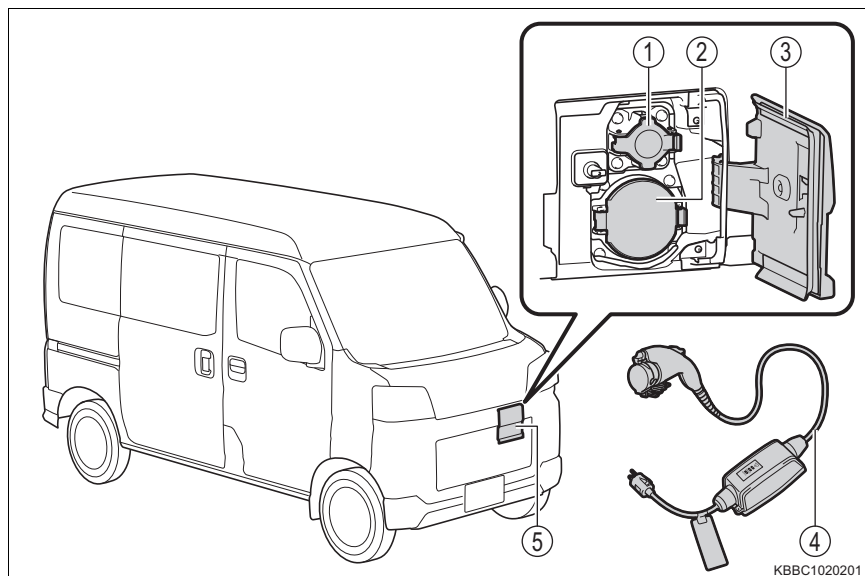
■ 改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

2-2. 充電について

充電に関する装備について

充電装備と名称



- ① 普通充電インレット
- ② 急速充電インレット
- ③ 充電リッド (→ P. 34)

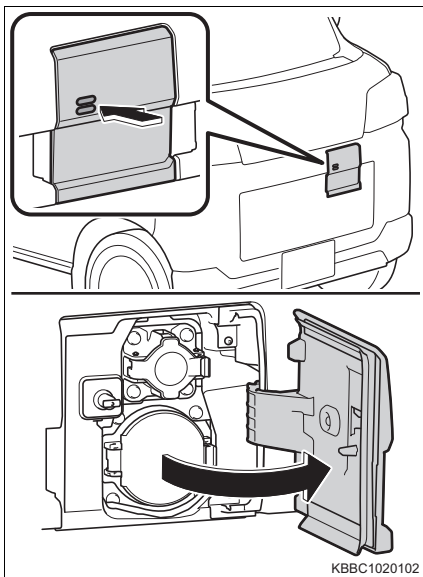
- ④ 普通充電ケーブル (→ P. 35)
- ⑤ 充電ポート

充電リッドの開閉

■ 充電リッドの開け方

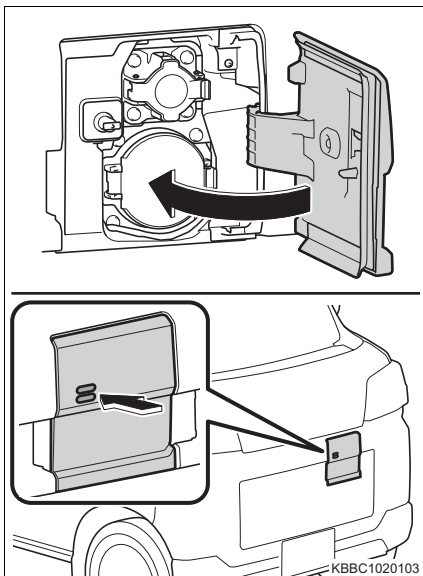
図に示す位置を押して、充電リッドを開ける。

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



■ 充電リッドの閉め方

図に示す位置を押して、充電リッドを閉める



普通充電ケーブルについて

⚠ 警告

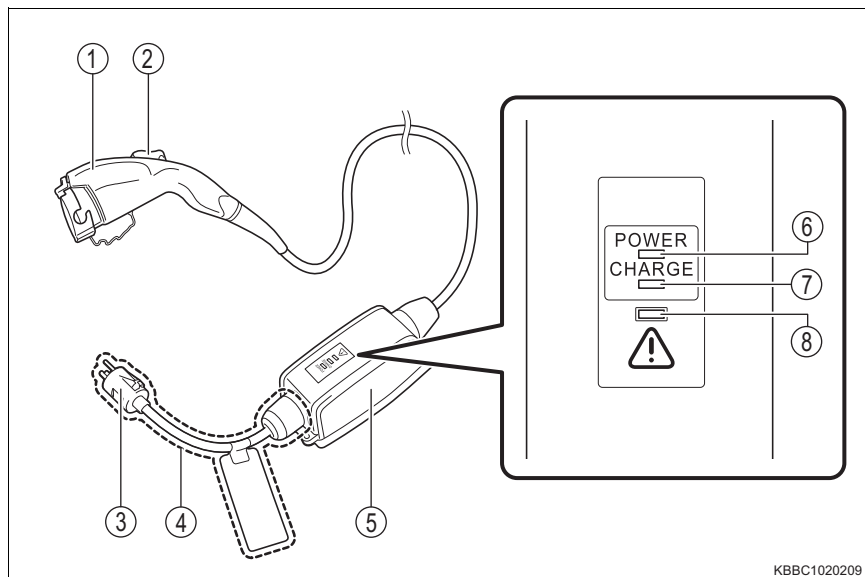
■ 普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してダイハツサービス工場にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクタ・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具などの高温物に近付けない
- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクタに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

各部の名称



① 普通充電コネクタ

② ロック解除ボタン

③ 電源プラグ

④ 電源プラグコード

⑤ コントロールユニット

⑥ 電源インジケータ（→ P. 36）

⑦ 充電インジケータ（→ P. 36）

⑧ エラーインジケータ（→ P. 36）

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。（電気が遮断された場合の対処方法については、P. 36 を参照してください）

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケーターの点滅でお知らせします。（→ P. 36）

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに差しあっても、普通充電コネクタが車両に接続されていないと、普通充電コネクタに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケーターについて

■ 各インジケーターの働き

3つのインジケーターで、それぞれ次の状態を示します。

① 電源インジケーター

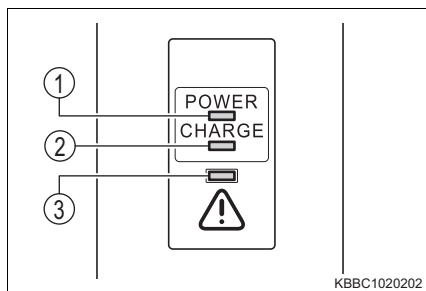
コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

② 充電インジケーター

充電中に点灯します。

③ エラーインジケーター

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。



■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、一旦電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに差し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 → ダイハツサービス工場にご相談ください。
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 → ダイハツサービス工場にご相談ください。

状況	電源インジケータ	エラーインジケータ	原因・対処
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 → 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 → ダイハツサービス工場にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限を超えています。 → ダイハツサービス工場にご相談ください。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

警告

■ 日常点検について

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの差し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこりなどの汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

接続可能な外部電源について

⚠ 警告

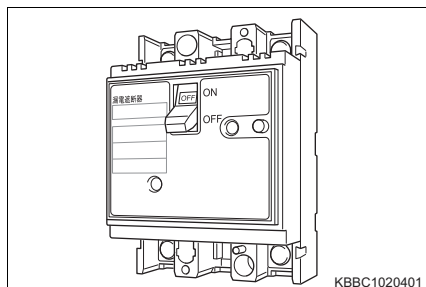
■ 電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりするとと思われる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

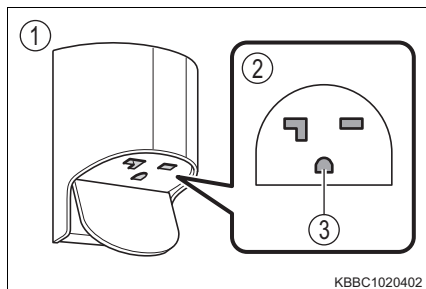
電源について

- 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
- AC200V で 16A (100V 換算で 32A) の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。＊
 - ＊ 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。
- 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。＊
 - ＊ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- BEV / PHEV 専用コンセントに接続してください。

- ① BEV / PHEV 専用コンセントの例
- ② 200V コンセント極配置＊
- ③ 接地極（アース）



＊ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

⚠ 警告

■ 電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。
- 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。
- 普通充電コネクターと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
普通充電コネクターと普通充電インレットとの間に、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電の前に知っておいていただきたいこと

⚠ 警告

■ 充電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペースングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、他の方をお願いしてください。

- 充電時は、普通充電器（スタンド）、急速充電器（スタンド）、充電ケーブルに近付かないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電中は車内にとどまらないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを P から切り替えしないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P から他のシフトポジションに切り替わることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 充電に関する留意事項

一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200V での普通充電時は、大電流で長時間電流が流れる（→ P. 38）
- お客様の充電環境によっては、屋外で充電作業を行う
- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 充電器（スタンド）で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること（→ P. 81）
- パワースイッチが“OFF”になっていること（→ P. 77）
- ヘッドランプ、非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること
ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。（→ P. 37）

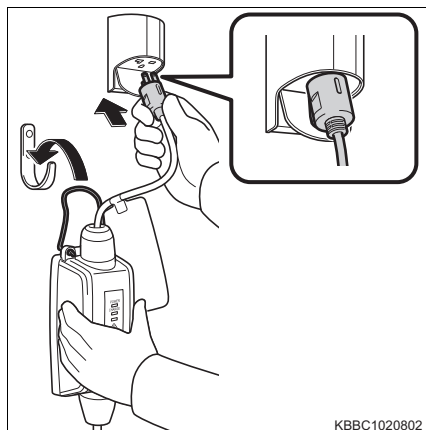
普通充電のしかた

充電前の重要確認事項

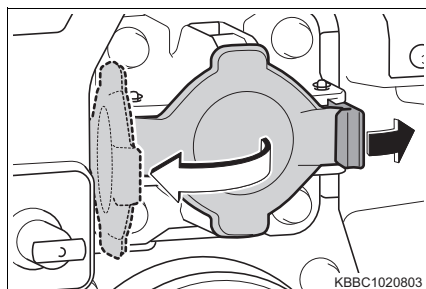
→ P. 39

充電するときは

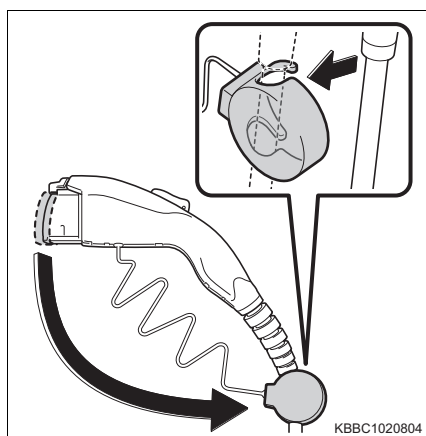
- 1 普通充電ケーブルを用意する
- 2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに差し込む
必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで差し込んでください。
手元スイッチがある場合は、スイッチを ON にしてください。
コントロールユニット上の電源インジケータが点灯していることを確認してください。
コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを差しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフックなどに引っかけて使用してください。



- 3 充電リッドを開ける (→ P. 34)
- 4 普通充電インレットキャップを開ける



- 5 普通充電コネクターの保護キャップを外し、ケーブルにかけて固定する



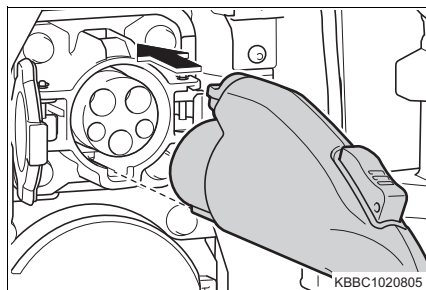
6 普通充電コネクタを普通充電インレットに差し込む

普通充電コネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで差し込みます。

“カチッ”という音がして、普通充電コネクタが確実にロックされたことを確認してください。

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したときは、P. 36 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、コントロールユニット上の充電インジケータが消灯します。



⚠ 警告

■ 充電するときの警告

充電するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する (→ P. 38)
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこりなどの異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこりなどの異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
付着している場合は、普通充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 差し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクタ・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）で触れたり、手で触れたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
防雨スイッチプレートを実際に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- 充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは差さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き差しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで差し込む
- 延長コード・変換アダプターを使用しない
- 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
冷却ファンが急に回り出すことがあります。ファンなど回転部分に触れたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する

■ 充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P. 36 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケータが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取り外して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

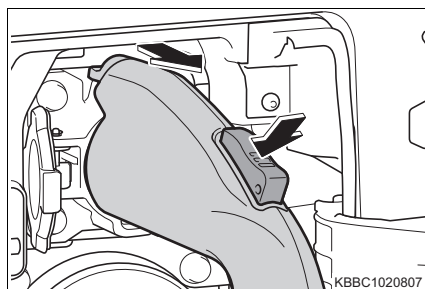
■ 車載充電器について

点検口内に車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

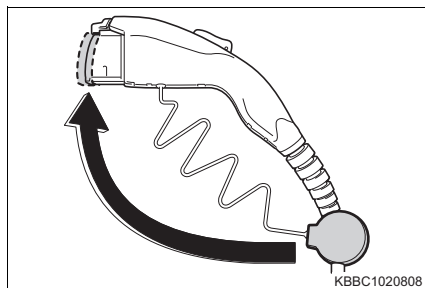
- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、触れないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずダイハツサービス工場にご相談ください。

充電したあとは

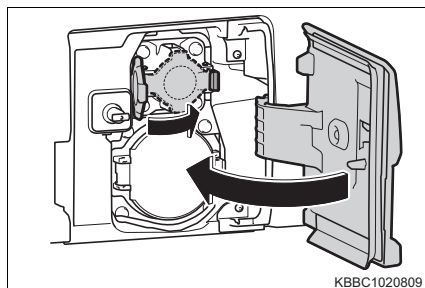
- 1 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクタを取り外す
充電中にロック解除ボタンを押すと、充電が停止します。



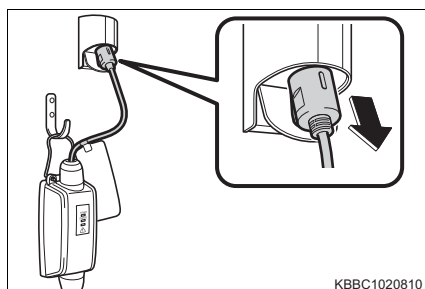
- 2 普通充電コネクタの保護キャップを取り付ける



- 3 普通充電インレットキャップを閉め、充電リッドを閉める
普通充電インレットキャップを閉めるときは、“カチッ”という音がして、確実に閉まっていることを確認してください。



- 4 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く
必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。
取り外した普通充電ケーブルは、ただちに片付けてください。
電源プラグを差したままにするときは、1 か月に 1 回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。



⚠ 警告

■ 充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

電源プラグやコンセントにほこりなどの汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた

⚠ 警告

■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

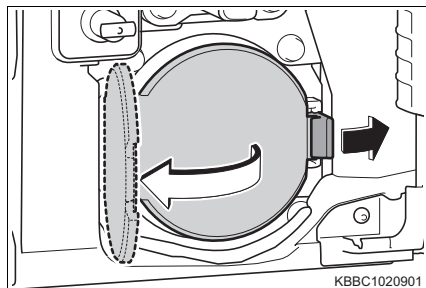
- CHAdeMO 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用してください。
- 電動自動車用充電システムガイドライン V2H DC 版に準拠した V2H 機器を使用してください。
- 30m を超えるケーブルを使用しないでください。
- 本車両の急速充電は、30m 以内のケーブルでの充電、または他の機器／車両と同時充電しない急速充電器（スタンド）に対応しています。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電前の重要確認事項

→ P. 39

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときは

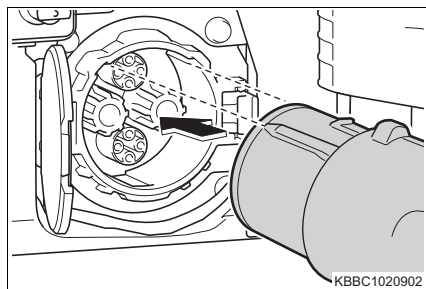
- 1 充電リッドを開ける（→ P. 34）
- 2 急速充電インレットキャップを開ける



- 3 急速充電コネクタを急速充電インレットに奥まで正しく差し込む

急速充電コネクタの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



- 4 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を開始する
具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従ってください。
システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されます。
充電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止してください。

警告

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する

急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わず、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 急速充電コネクタ－・急速充電インレットの端子に手を触れたり、異物でショートさせたりしない
- 急速充電インレットに急速充電コネクタ－以外のものを差し込まない
- 急速充電コネクタ－・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）で触れない
- ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する
- 急速充電コネクタ－と急速充電インレットは、必ず直接接続する
- 急速充電コネクタ－と急速充電インレットとの間に、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

- 急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う

急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中止してください。

- 急速充電コネクタ－・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する
付着している場合は、急速充電コネクタ－を接続する前にしっかりと取り除いてください。

- 落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わない

急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルに触れないでください。

- 急速充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 急速充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

冷却ファンが急に回り出すことがあります。ファンなど回転部分に触れたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ V2H 充電／V2H 給電するときの警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
- 使用中に車両を移動させたり、傾けたりしない
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しない

■ 急速充電コネクタ－を接続するとき

- 急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って急速充電コネクタ－を接続してください。急速充電コネクタ－が正しく接続されていない場合、システムがコネクタ－の接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクタ－を車両の急速充電インレットから取り外してください。もしコネクタ－が接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急速充電中に、急速充電インレットから急速充電コネクタ－を取り外さないこと。急速充電器（スタンド）を操作して充電を停止したあと、急速充電インレットから急速充電コネクタ－を取り外してください。

■ 車両に急速充電コネクタ－が接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。万一、急速充電コネクタ－が故障していた場合、シフトポジションがPから他のシフトポジションに切り替わることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

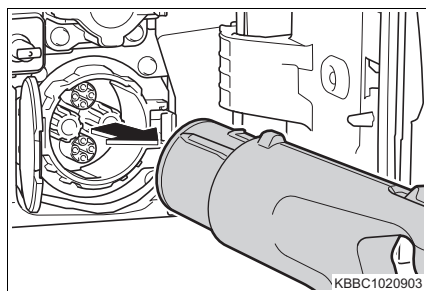
1 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止する

2 急速充電コネクタを取り外す

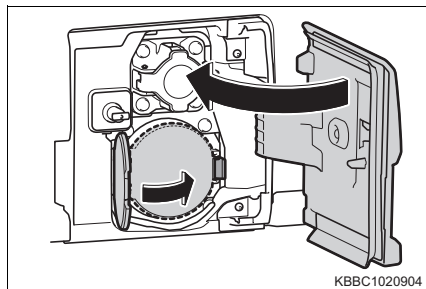
急速充電コネクタの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

取り外した急速充電コネクタは、もとの位置に戻してください。



3 急速充電インレットキャップを閉め、充電リッドを閉める



充電中に使用できる機能について

⚠ 警告

■ 充電中に電装品を使用するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止などにより車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 48

計器類 51

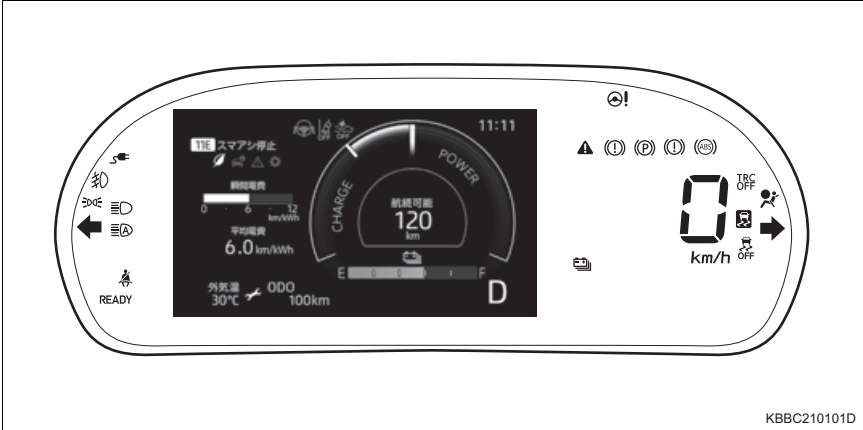
TFT カラーマルチ
インフォメーション
ディスプレイ 52

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯

メーター・インストルメントパネル中央の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター



KBBC210101D

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

	警告灯		参照先
※ 1		ブレーキ警告灯（赤色／黄色）	148
※ 1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	148
※ 1		ABS 警告灯	148
※ 1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	148
※ 1		ADB 警告灯（黄色）	148
※ 1、2		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	148
※ 1、3		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	148
※ 1、4		マスターウォーニング	148

警告灯			参照先
		スマートアシスト停止警告灯	165
※1、5		スリップ表示灯（点灯）	149
※1		手放し運転警告灯	149
		電池残量警告灯	149
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	149
※6		後席シートベルト締め忘れ警告灯★	149
		パーキングブレーキ未解除警告灯	149

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはEVシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。

※3 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報を停止にしたときも点灯します。

※4 スマートアシストが作動したときも点灯します。

※5 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※6 インストルメントパネル中央に点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	表示灯	参照先
		方向指示表示灯
		ハイビーム表示灯
		フロントフォグランプ表示灯★
		尾灯表示灯
※1		スリップ表示灯（点滅）
※1		VSC OFF 表示灯
※1		TRC OFF 表示灯
※1		スマートアシスト作動灯
※1、2		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯）
※1		車線逸脱警報作動灯
※1、2		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯）
		ADB 作動灯（緑色）
		充電コネクタ接続表示灯
		READY インジケータ

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 スマートアシストに異常があるときは点滅します。

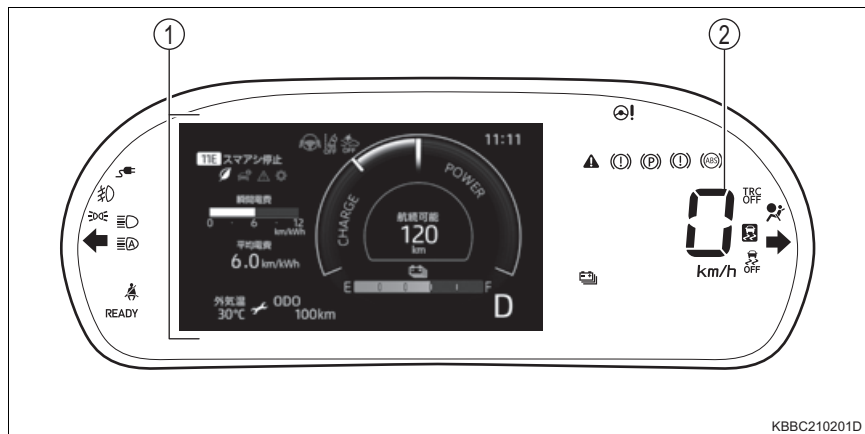
⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後または EV システムを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

計器類

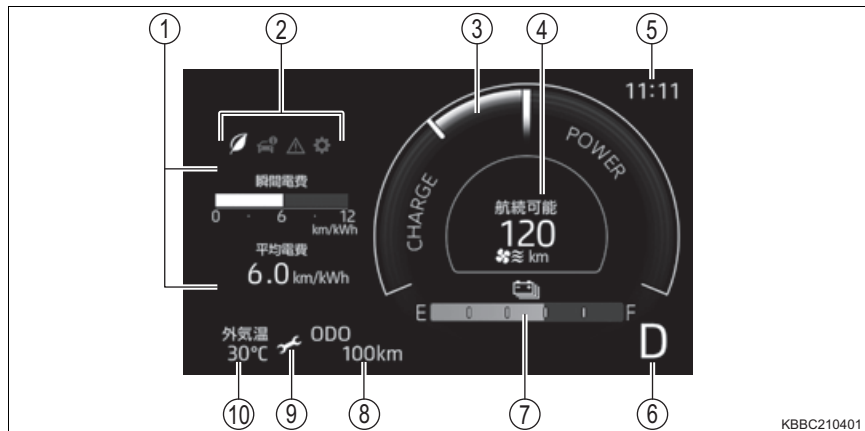


- ① TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 52)
- ② スピードメーター
車両の走行速度を示します。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイは、車両や走行に関する様々な情報を表示したり、設定を変更することができます。



KBBC210401

① コンテンツ表示

メニューアイコンを切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

② メニューアイコン

アイコンを切り替えてコンテンツを表示させます。

③ パワーメーター

走行中の出力（電力）や充電（電力の回収量）の状態を表示します。

- ・ CHARGE エリア：回生ブレーキにより発生した電力を駆動用電池に充電している状態を示します。
- ・ POWER エリア：一定の速度での走行時、または急加速時など、より多くの電力を消費して走行している状態を示します。

④ 航続可能距離

現在の駆動用電池の残量で走行できる、およその距離を表示します。

- ・ エアコンを作動すると  が表示され、エアコン作動時の航続可能距離が表示されます。

⑤ 時計表示

アナログ時計表示中は、日付が表示されます。

⑥ シフトポジション表示灯

選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 79）

⑦ 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

⑧ トリップインフォメーション

⑨ メンテナンスアイコン

お知らせがあるときに点灯します。

点灯しているときは、内容を確認し、メンテナンスを行ったあとは再度設定をしてください。

⑩ 外気温表示

- ・ 外気温を表示します。
外気温：-30℃～60℃の間で表示します。
- ・ 外気温が3℃以下になると路面凍結警告を表示します。
温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

表示切り替え

操作スイッチを押して、画面の表示切り替え、設定の変更をします。

① スイッチ

- ・メニューを切り替えます。
- ・コンテンツの切り替え、ページ送り、カーソルを移動

② ENTER スイッチ

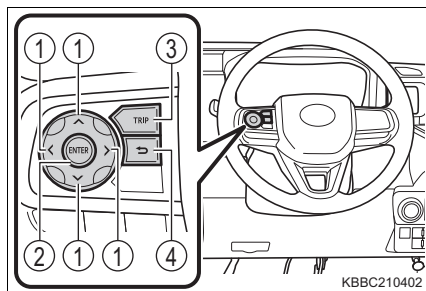
- ・項目の決定・選択をします。
- ・長押しすると、走行情報の項目をリセットします。

③ TRIP スイッチ

トリップインフォメーションの表示を切り替えます。

④ RETURN スイッチ

- ひとつ前の画面に戻ります。
- 長押しすると、最初の画面に戻ります。



設定

■ 日時

日時を設定できます。

純正ナビゲーションシステム装着車：日時の自動補正の ON / OFF を設定できます。

① スイッチを押してメニューを に切り替える

② スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

③ スイッチを押して設定したい項目を選択し、ENTER スイッチを押す

- ・自動補正は ENTER スイッチを押すたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。
- ・自動補正を「ON」に設定した場合は、日時の調整はできません。

- ・年・時・分は  が表示されたあと、

 スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

設定時刻の 0 秒にリセットされた状態から時計が作動をはじめます。

- ・12H / 24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切り替わります。
- ・12H / 24H の設定にかかわらず時刻調整時は 24 時間表示になります。



⚠ 警告

■ 走行中の警告

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

4-1. キー	
キー	56
4-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーフリーシステム	56
フロントドア	58
スライドドア	59
バックドア	64
4-3. シートの調整	
フロントシート	65
リヤシート	66
ヘッドレスト	66
4-4. ハンドル位置・ミラー	
インナーミラー	68
スマートインナーミラー	68
ドアミラー	70
4-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	71
ポップアップ機構付 リヤガラス	72

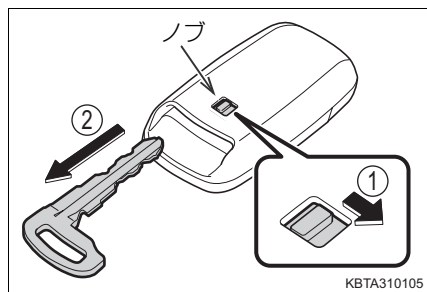
4-1. キー

キー

エマージェンシーキーを使うには

- ① ノブをスライドする
- ② エマージェンシーキーを取り出す

使用後はもとに戻し、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。(→ P. 175)

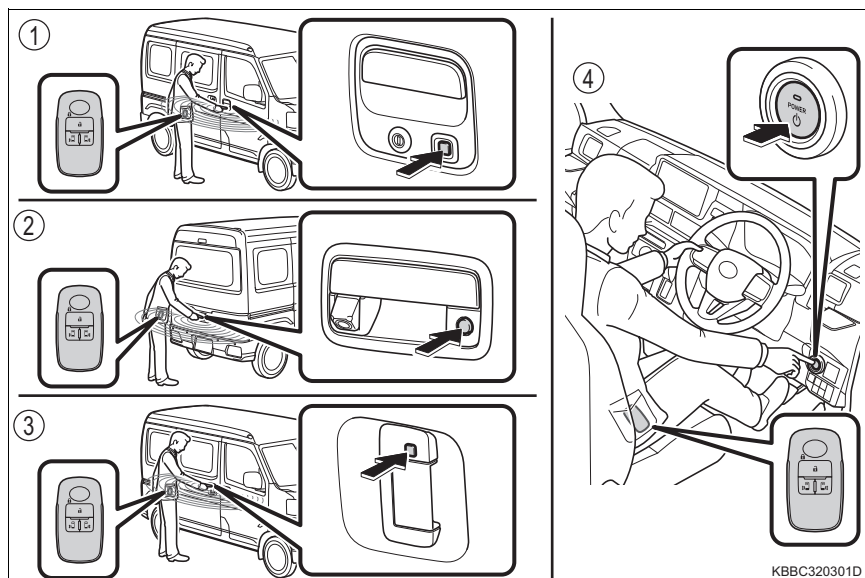


4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

キーフリーシステム

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)

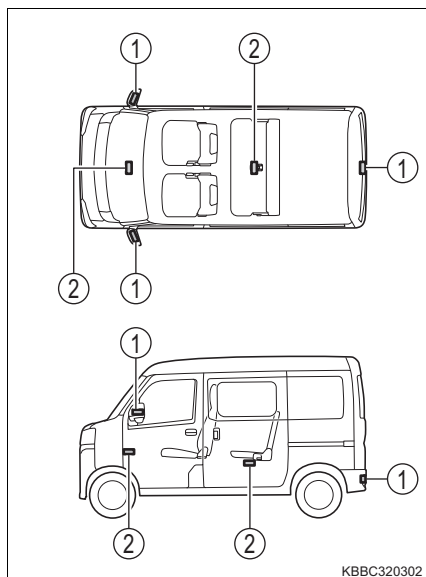


- ① 全ドアを施錠・解錠する (リクエストスイッチ装着車) (→ P. 58)
- ② 全ドアを施錠・解錠する (リクエストスイッチ装着車) (→ P. 64)
- ③ 全ドアを解錠してスライドドアを開ける (パワースライドドア装着車) (→ P. 59)
- ④ EV システムを始動する (→ P. 77)

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

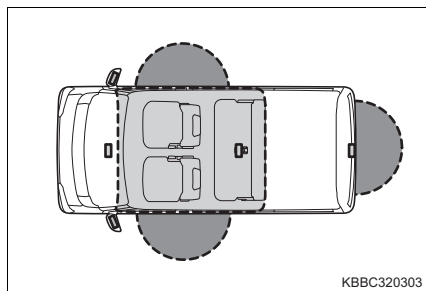
- ① 車外アンテナ（リクエストスイッチ装着車）
- ② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子カードキーの検知範囲）

- : ドアの施錠・解錠時
（リクエストスイッチ装着車）
ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。
（電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

- : EVシステム始動時またはモード切り替え時
車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。



知識

■ ダイハツサービス工場で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

警告

■ 電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 57）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

フロントドア

ドアの施錠／解錠

キーフリーシステムやワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ キーフリーシステム（リクエストスイッチ装着車）

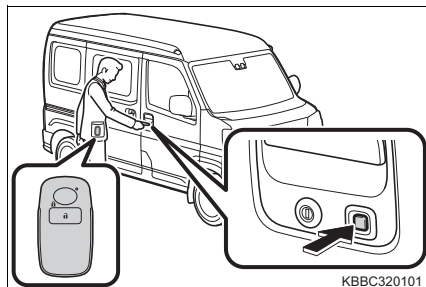
電子カードキーを携帯し、リクエストスイッチを押して全ドアを解錠・施錠する

スイッチを確実に押してください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。

（タッチ & ゴーロック機能★使用時を除く）



▶ ウェルカムドアロック解除★

電子カードキーを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する

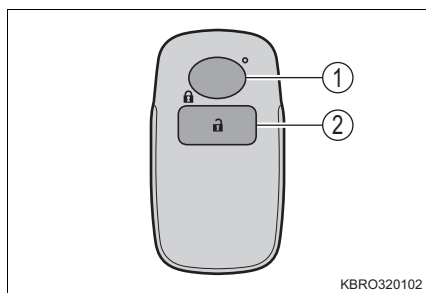
ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

■ ワイヤレス機能

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



■ キー

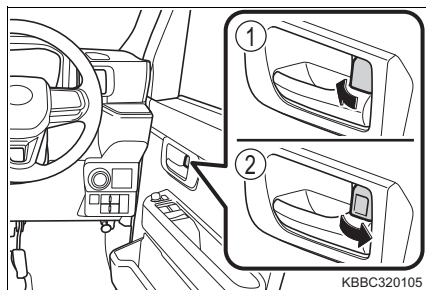
エマージェンシーキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→ P. 175）

■ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

- 運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。
- 運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くとすべてのドアが解錠され、ドアが開きます。



⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

- 傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■ お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スライドドア

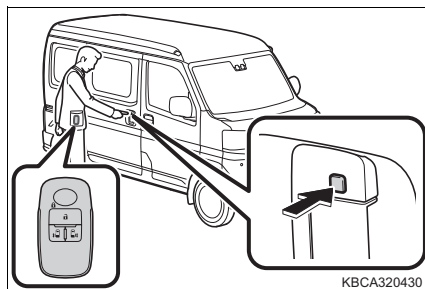
車外からの解錠／施錠

■ キーフリースystem（パワースライドドア装着車）

電子カードキーを携帯し、ワンタッチスイッチを押して全ドアを解錠する

同時にスライドドアが自動で開きます。

スイッチを確実に押してください。

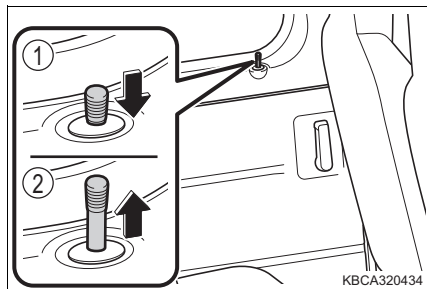


KBCA320430

車内からの解錠・施錠

■ ロックボタン／ロックレバー

▶ イージークローザー非装着車

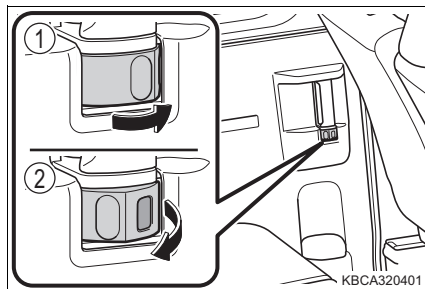


KBCA320434

① 施錠

② 解錠

▶ イージークローザー装着車



KBCA320401

⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよろずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクター★を使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

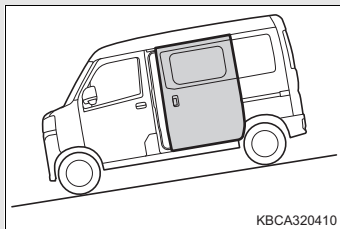
- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。(パワースライドドア★：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。または、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません)
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター★を使用して車内からドアが開かないようにする

■ スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。(全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます) 半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜が急な場所ではスライドドアを開けたままにしないでください。スライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアに当たったり挟んだりしないように注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。



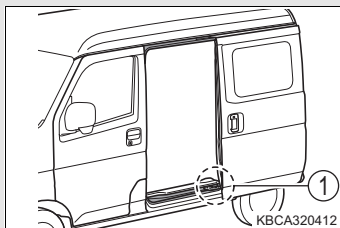
KBCA320410

⚠ 警告

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

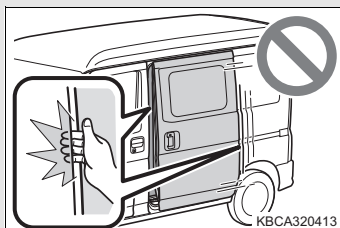


- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に ①の部分には十分注意してください。



■ スライドドアイーজークローザー★について

- スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- スライドドアイージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチ★が OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーやチャイルドプロテクター★が施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にドアハンドルを引くとスライドドアイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

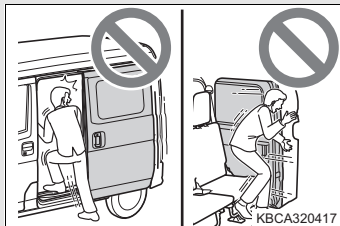
⚠ 警告

■ パワースライドドア★について

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブレーキを確実にかけて、お車が完全に停止している状態で行ってください。
- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

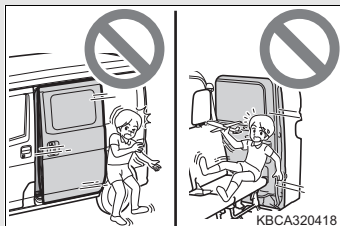


- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 傾斜した場所ではパワースライドドアを開閉しないでください。自動開閉を完了できずに途中で反転作動するおそれがあります。

- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にしたり、センサーなどが故障したときは、ブザーが鳴り作動が停止して、約 3 秒後に停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分に注意してください。

- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。

この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- 自動開作動中に車速が約 3km/h 以上になったときは、ブザーが鳴り作動が停止して、そのまま停止状態を維持します。この場合、同乗者や荷物が車外に放り出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車するか、スイッチやドアハンドルの操作でスライドドアを全開にしてください。

- パワースライドドアが完全に閉まらない状態で走行しないでください。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドアハンドルやスイッチの操作により、スライドドアを完全に閉めてください。

- EV システム停止中に、パワースライドドアを途中で停止させたまま放置しないでください。スイッチやドアハンドルの操作で停止した場合は、約 3 分後（挟み込みで停止した場合は約 30 分後）にブザーが鳴り、停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

⚠ 警告

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ EV システム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを“ON”にしたり EV システムを始動したりして、補機バッテリーの電圧が急に低下したとき
- ドアガラスを開けた状態で自動閉閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能★（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

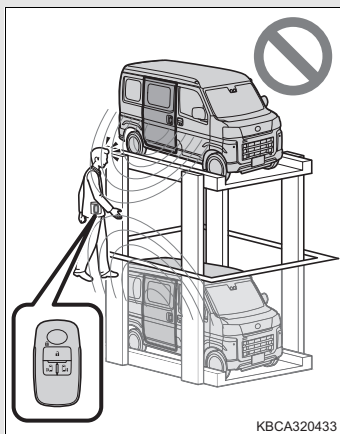
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ ウェルカムオープン機能★について

ウェルカムオープン機能によるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアミラーから約 3m 以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近付いてください。周囲に人がいるときは、車両に近付く前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムオープン機能を作動させないでください。
- 機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近付いてください。車両が電子カードキーよりも上、または下にある状態でも電子カードキーが検知されればウェルカムオープン機能が作動し、スライドドアが自動的に開作動します。



- 電子カードキーが検知されてからスライドドアの開作動が開始するまでの間は、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、または電子カードキーのボタンを押せる状態でお待ちください。
- スライドドアの開作動までの待ち時間の変更で待ち時間を短く設定したときは、電子カードキーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

バックドア

車外からの施錠／解錠

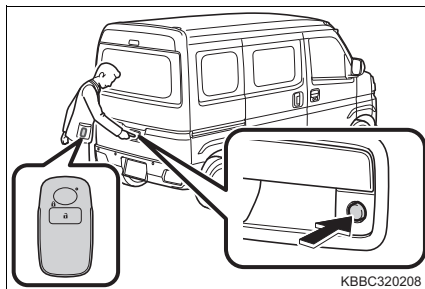
■ キーフリーシステム（リクエストスイッチ装着車）

電子カードキーを携帯し、リクエストスイッチを押して全ドアを解錠・施錠する

スイッチを確実に押してください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



KBBC320208

車内からの施錠／解錠

■ ロックレバー

→ P. 58

⚠ 警告

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

- お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの使用にあたって

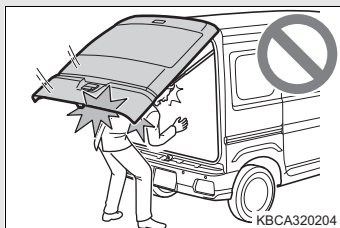
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

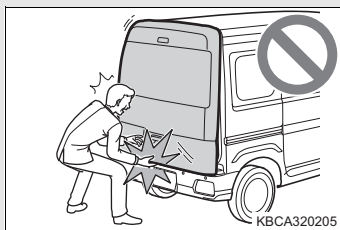
⚠ 警告

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

4
各部の
操作

4-3. シートの調整

フロントシート

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- 必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■背もたれを前に倒すときは（助手席）★

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれに人を乗せて走行しない
- 必ず背もたれを手で押さえながら操作する

⚠ 警告

■ 背もたれをもとに戻したあとは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

リヤシート★

⚠ 警告

■ シートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 操作をするときは、床にものがないことを確認してから行う
- 折りたたんだシートやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ シートをもとに戻したあとは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

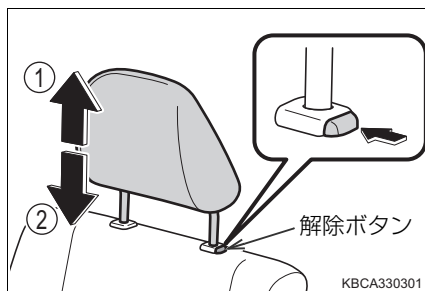
ヘッドレスト★

フロントシート★

① 上げる

② 下げる

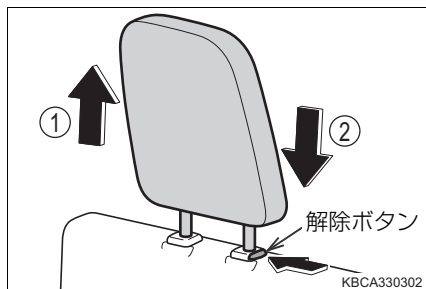
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



① 上げる

② 下げる

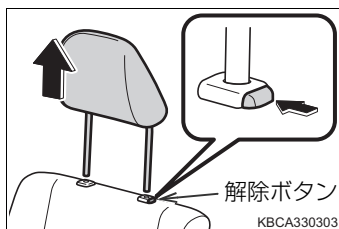
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ ヘッドレストを取り外すとき

解除ボタンを押しながら取り外します。



■ ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

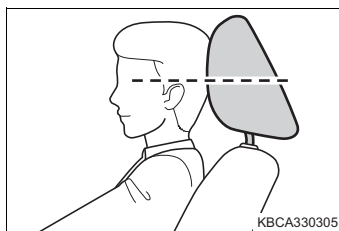
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ フロントシートヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤシートヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを前後逆に取り付けない
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストを外したまま走行しない

4-4. ハンドル位置・ミラー

インナーミラー★

⚠ 警告

■ 走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スマートインナーミラー★

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。切り替えレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切り替えることができます。荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。

- デジタルミラーモードのときにシフトポジションを R にすると、バックカメラの映像 (→ P. 109) がミラー内に表示されます。※1、2

※1 純正ナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの画面に表示されます。

※2 グレードによってはミラー内に表示されない場合があります。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ スマートインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラー調整を行ってください。
 - ・鏡面ミラーモードに切り替えて鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
 - ・デジタルミラーモードに切り替えて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

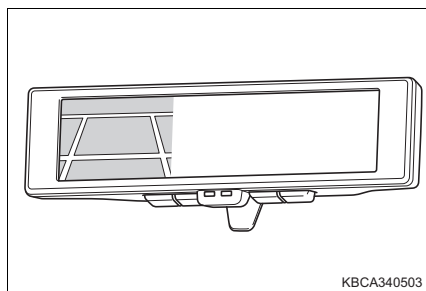
バックカメラの映像を映すには

デジタルミラーモードで使用中にシフトポジションを R にすると、バックカメラ (→ P. 109) の映像がミラー内に表示されます。※1、2

表示位置を左右入れ替えることができます。

※1 純正ナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの画面に表示されます。

※2 グレードによってはミラー内に表示されない場合があります。



KBCA340503

調整のしかた

■ ディスプレイの調整 (デジタルミラーモード)

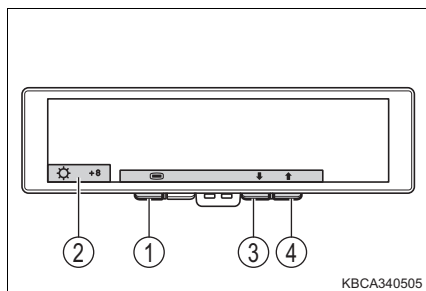
デジタルミラーモードの各種調整ができます。

① デジタルミラーモードにする

② メニュースイッチ (①) を押して、調整する項目を選択する

調整アイコン (②) が表示されます。

③ 調整／選択スイッチ (③)、(④) を押して調整、選択をする



KBCA340505

4

各部の操作

項目	調整アイコン	調整／選択スイッチ	
	②	③	④
明るさ調整		暗い	明るい
視野上下調整		下	上
視野左右調整		左	右
視野回転調整		反時計回り	時計回り
バックカメラ表示位置		左	右
ボタン照明		消灯 OFF	点灯 ON

警告

■ 走行中の留意事項

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は、スマートインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。

スマートインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してダイハツサービス工場にご相談ください。

ドアミラー

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーを調整するとき（手動タイプ）

汚れた手で調整しないでください。鏡面に汚れが付くと夜間など後方からのランプが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

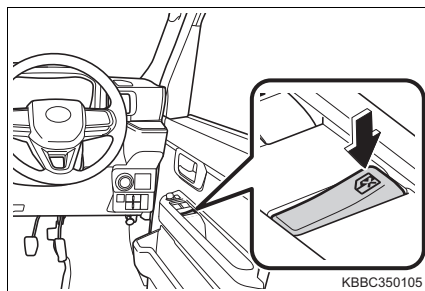
4-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

警告

次のことを必ずお守りください。

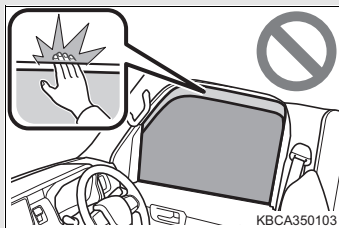
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

● 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 71）

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



● お車から離れるときはパワースイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまと一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

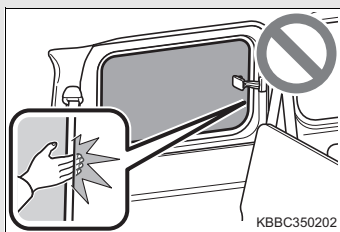
● 特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

ポップアップ機構付リヤガラス★

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するとき

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の指や手などを挟まないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



5-1. 運転にあたって

運転にあたって	74
荷物を積むときの注意	76

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	77
トランスミッション	79
方向指示レバー	80
パーキングブレーキ	81

5-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	81
ADB（アダプティブ ドライビングビーム）	82
ワイパー＆ウォッシャー （フロント）	83
ワイパー＆ウォッシャー （リヤ）	84

5-4. 運転支援装置について

スマートアシスト	84
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、 衝突回避支援ブレーキ機能 （対車両・対歩行者）	92
ブレーキ制御付誤発進抑制機能 （前方・後方）	100
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能／ 車線逸脱抑制制御機能	103
ふらつき警報	105
先行車発進お知らせ機能	105
標識認識機能（進入禁止／ 最高速度／一時停止）	105
コーナーセンサー	108
バックカメラ	109
運転を補助する装置	110

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	112
--------	-----

5-1. 運転にあたって

運転にあたって

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
 - ・ お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 電気自動車は駆動モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 145 を参照してください。
- 急な下り坂では、回生ブレーキを併用して走行してください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
また、回生ブレーキは、駆動用電池が満充電に近くなるほど効きが弱くなり、満充電の状態では効かなくなります。あらかじめ速度を控えて走行してください。
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「回生ブレーキ制限中 ブレーキを踏んで減速してください」が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んで減速してください。(→ P. 156)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。
電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■ 滑りやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作は、お車が横滑りするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

警告

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、Rのまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いている間は、Pポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
(完全に停車する前にシフトポジションをPにすると大きな作動音がある場合があります)
- 車両が前進している間は、シフトポジションをRにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退している間は、前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、EVシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、EVシステムを停止し、施錠してください。
READYインジケーターが点灯している間は、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 仮眠するとき

必ず EV システムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切り替えたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

● ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。

● ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

● 万一 EV システムが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。

ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまういます。

● ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

- ハンドルが取られる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 167 を参照してください。

荷物を積むときの注意

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

● 次の場所には荷物を積まないでください。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席や後席★（荷物を積み重ねる場合）
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード
- ・ ふたのない小物入れ／トレイ

● 室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。

● シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

● リヤシート★の背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。

⚠ 警告

- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ

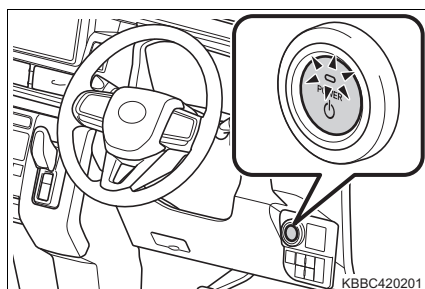
電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、EV システムの始動またはパワースイッチモードを切り替えることができます。

EV システムを始動するには

- 1 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する
- 2 正しい運転姿勢（→ P. 17）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 3 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかりと踏み

パワースイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、EVシステムは始動しません。
シフトポジションが N と表示されているときは、EV システムを始動できません。
EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→ P. 79）



5 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、長押しする必要はありません。
READYインジケータが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。
READYインジケータが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
パワースイッチのどのモード（→ P. 78）からでも EV システムを始動できます。



6 READY インジケータが点灯したことを確認する

READY インジケータが点滅または消灯している状態では走行できません。

EV システムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 81)、シフトポジションを P にする
- 3 パワースイッチを押す
EVシステムが停止し、READY インジケーターが消灯します。(シフトポジション表示灯は、READY インジケーターが消灯したあとも数秒間表示されています)
- 4 ブレーキペダルから足を離して、パワースイッチの表示灯が消灯していることを確認する

パワースイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

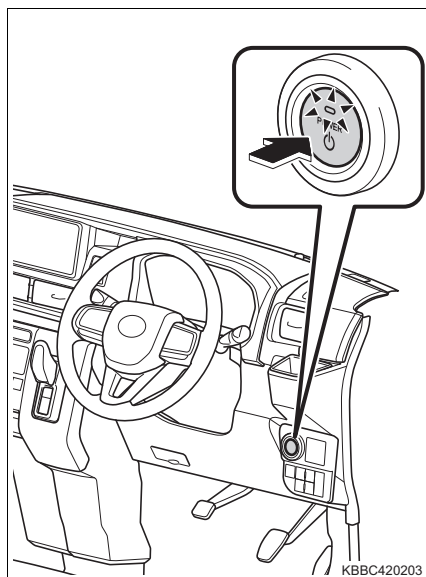
パワースイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

パワースイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトポジションが P 以外のときは
“ACC” になり、“OFF” になりません。



KBBC420203

警告

■ EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

EV システムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時の EV システム停止方法

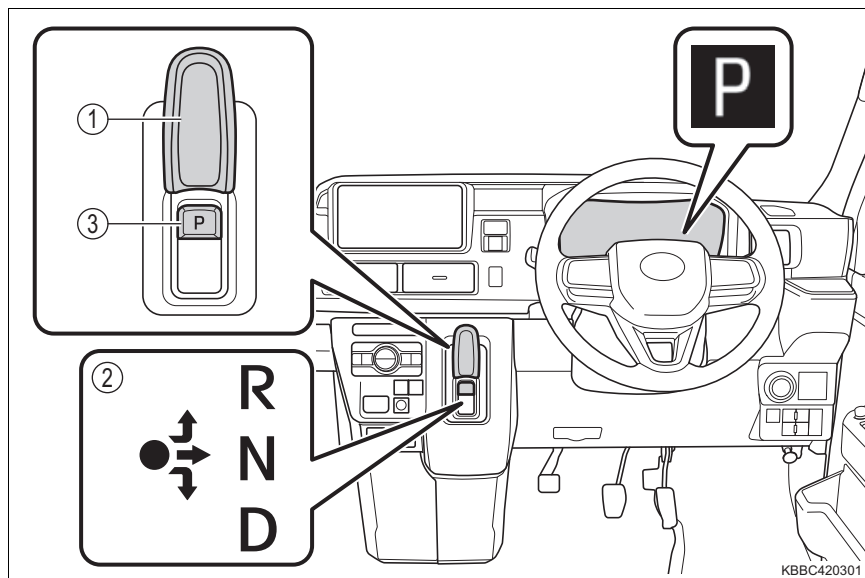
- 走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 145)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチに触れないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルやブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

- 走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

トランスミッション

シフトポジションの切り替え方法と表示について



① シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。
Nに切り替えるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。
シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーがもとの位置に戻ります。
PからN・D・R、およびN・D・RからPへ、またはDからR、およびRからDへ切り替えるときは、ブレーキペダルを踏み、お車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

メーター表示：現在のシフトポジションが表示されます。
シフトレバー表示：現在のシフトポジションが点灯表示されます。
シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切り替わったことを必ず確認してください。

③ P ポジションスイッチ

P ポジションに切り替えるには、お車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。
シフトポジションをPにすると、スイッチが点灯します。
シフトポジション表示灯がPであることを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的
P	駐車または EV システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行

⚠ 警告

■ シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取り外したり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置に戻らなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切り替わりを防止するため、操作時以外はシフトレバーに触れないでください。

■ P ポジションスイッチについて

- お車が動いているときは、P ポジションスイッチに触れないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切り替わることがあるため、お車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切り替わりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチに触れないでください。

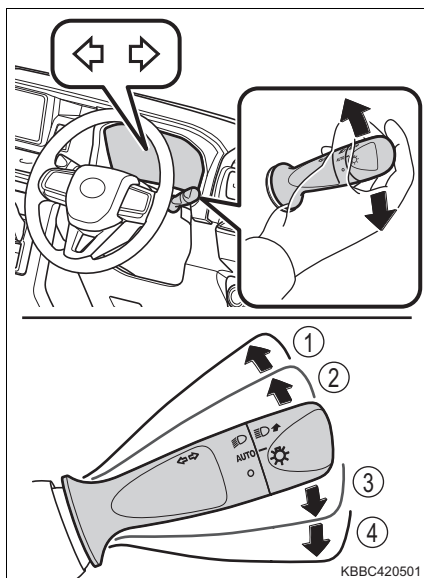
方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



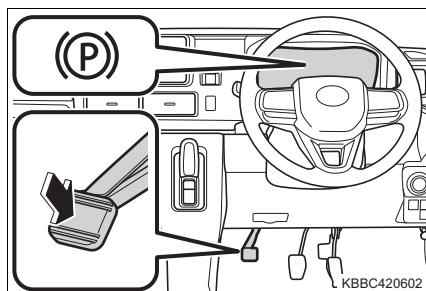
■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



警告

■ 走行前の留意事項

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

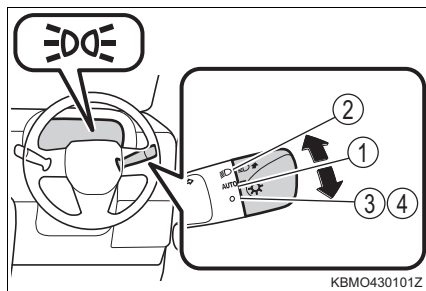
5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ

自動または手でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

パワースイッチが“ON”のとき、次のように  スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	AUTO	自動点灯・消灯	
②		点灯※1	
③※2、3	 (約 1 秒以上操作)	消灯	点灯

スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
④※2、4	○ (約 2 秒以上操作)	消灯	

※1 パワースイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。

※2 点灯スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※3 自動点灯中で次のいずれかの状態のとき

- ・車速が約 3km/h 以下
- ・停車中から発進後約 20 秒経過していない、かつ車速が約 15km/h 以下

※4 停車中で次のいずれかの状態のとき

- ・シフトポジションが P
- ・パーキングブレーキがかかっている

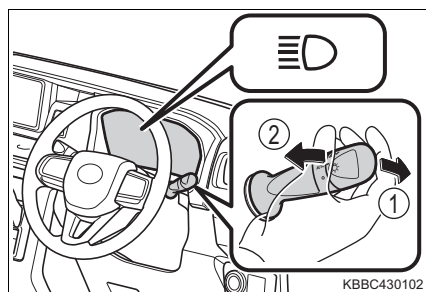
■ ランプ類の再点灯について

点灯スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 再度 点灯スイッチを ○ の位置に操作したとき
- パワースイッチを再度“ON”にしたとき
- 車速が約 15km/h を超えたとき（③のスイッチ操作時のみ）
- 車速が約 15km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 20 秒経過したとき（③のスイッチ操作時のみ）
- シフトポジションを P 以外にした、およびパーキングブレーキを解除したとき（④のスイッチ操作時のみ）

ハイビームにする

- ①ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替え
レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。
- ②レバーを引いている間、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯します。



ADB（アダプティブドライビングビーム）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

ADB を過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

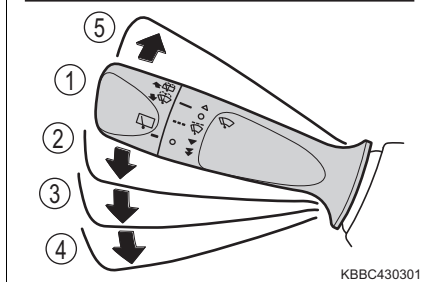
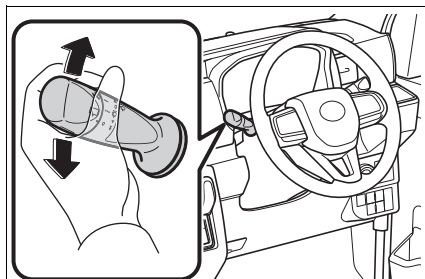
操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



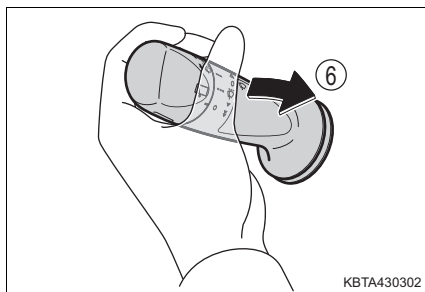
を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

- ① ○ : 停止
- ②  : 間欠作動
- ③ ▼ : 低速作動
- ④ ▼▼ : 高速作動
- ⑤ △ : 一時作動



KBBC430301

- ⑥  : ウォッシャー液を出す
- レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



KBTA430302

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

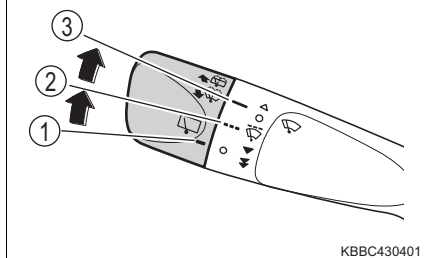
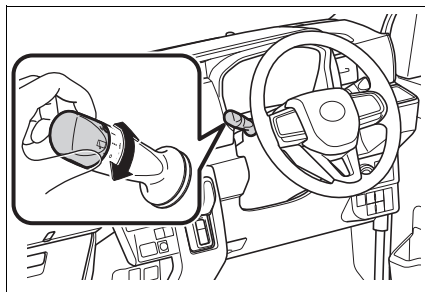
寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

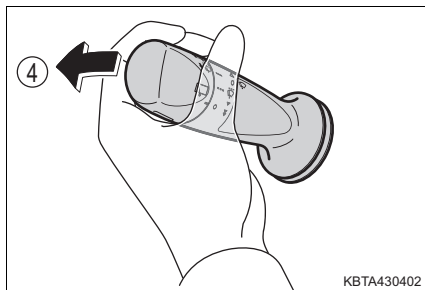
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ①  : 停止
- ②  : 約 4 秒間低速作動したあと、間欠作動
- ③  : 通常作動



- ④  : ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



5-4. 運転支援装置について

スマートアシスト

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

- ◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 92

- ◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 92

- ◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 100

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 103

◆ 車線逸脱抑制制御機能

→ P. 103

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 103

◆ ふらつき警報

→ P. 105

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 105

◆ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）

→ P. 105

◆ ADB

→ P. 82

⚠ 警告

■ スマートアシストについて

- スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- お客様ご自身でスマートアシストの作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。（→ P. 86）
 - ・ タイヤの空気圧が適正でないとき
 - ・ スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - ・ 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - ・ メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - ・ タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
 - ・ サスペンションを改造したとき
 - ・ ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたり
 - ・ ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ・ ヘッドランプの光軸がずれているとき
 - ・ ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 車両を改造・架装したとき
 - ・ けん引されるとき
 - ・ キャリアカー・船舶・列車などに積載するとき
 - ・ シャーシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - ・ リフトアップし、EV システムを始動させタイヤを空転させたいとき
 - ・ 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
 - ・ サーキットなどでスポーツ走行するとき
 - ・ 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
 - ・ 冠水した道を走行するとき
 - ・ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - ・ ブレーキ警告灯が点灯しているとき
 - ・ 洗車機を使用するとき

スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

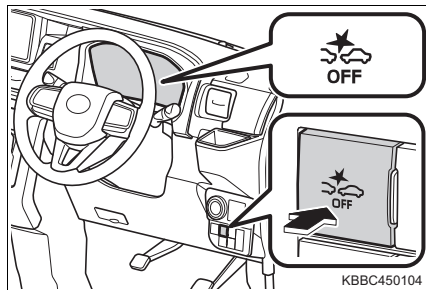
また、TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイの設定を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能・標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを2秒以上長押しする

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度2秒以上長押しすると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

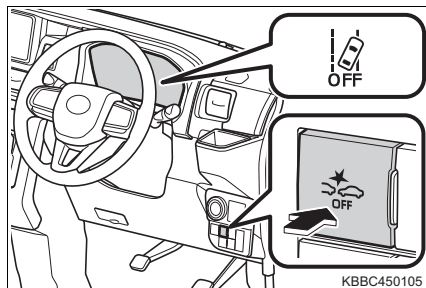


■ 車線逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



知識

■ ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■ スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

- EV システム始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※ 「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■ スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 165）

状況が改善されれば再度機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合

- EV システム始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■ スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度パワースイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報について

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報の作動可能状態または停止状態は、EV システムを再始動しても維持されます。

■ スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピッ”	 (点滅)		衝突警報機能が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレーキが作動
“ピピピッ”と鳴り続ける	 (点滅)		衝突回避支援ブレーキ機能の 2 次ブレーキが作動したあと、車両が停止運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピッ”	 (点滅)		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動するとともに EV システムの出力を抑制
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	 (点滅)		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動するとともに EV システムの出力を抑制

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ビピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のブレーキ制御が作動
“ビピピピッピピ ピピッ”	 (点滅)		車線逸脱警報・路側逸脱警報が作動
—	 (点灯)	—	車線逸脱抑制制御機能が作動
“ビピピピピッ”	  (点灯)		手放し運転をしているとシステムが判断しているとき、車線逸脱抑制制御機能が約3分の間に2回以上作動し、手放し注意が行われた
“ビピピピピ”と 鳴り続ける	  (点灯)		手放し注意が行われている状態から、さらに車線逸脱抑制制御機能が作動し、手放し運転警告が行われた
“ピピッピピッ”	 (点灯)		ふらつき警報が作動

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピッ”	 (点滅)		先行車発進お知らせ機能が作動
—	 (緑色)	—	ADB が作動
—※1	—	※2 	標識認識機能が作動

※1 標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。

※2 認識する道路標識により、表示が変わります。（→ P. 105）

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞き取りにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

警告

■ ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用している場合、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

● フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。

● フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 116）

● フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。

- ・ ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

● フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。

● 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 警告

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないでください。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。
- ステレオカメラに強い光を照射しないでください。
- ステレオカメラをサンシェードで覆わないでください。覆うとステレオカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。
- インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インstrumentパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- Instrumentパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けしないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

■ ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ソナーは常にきれいにしてください。
 - ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。
- ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
- ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ソナー、およびその周辺部分にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。
- バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。
- バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 汚れ検知機能について

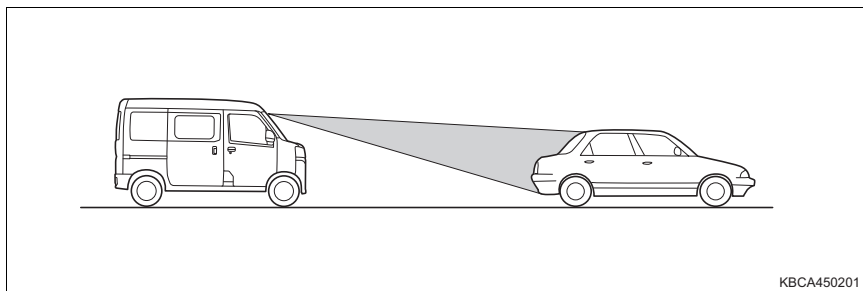
- ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両※¹、歩行者※²を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※¹ 二輪車、自転車を含む（人が乗車している場合のみを対象物としています）

※² 昼間、夜間対応



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 87）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 87）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

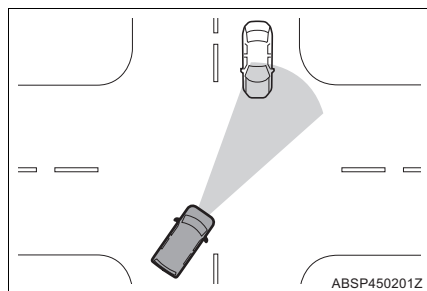
◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

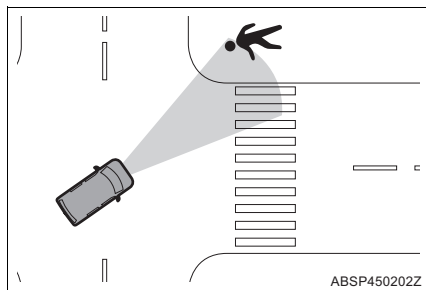
◆ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況で、衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報および衝突回避支援ブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 98
 - ・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 93, 98

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両^{*}や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏んでいたたり、ハンドルを操作していたりする場合、その操作状態によって衝突の可能性が低いと判断されると、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない、作動が遅れる、または作動が解除されることがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両^{*}との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 80km/h）を超える場合は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 18）

^{*} 二輪車、自転車を含む

■ 衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車両^{*}や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合
- 自車の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- EV システム始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

⚠ 警告

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両^{*}、歩行者に接近するとき
 - ・トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ・ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
 - ・強い光が車両^{*}や歩行者、路面に反射しているとき
 - ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
 - ・路面に水たまりや水膜があるとき
 - ・雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
 - ・自転車や対象物がふらついているとき
 - ・対象物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
 - ・右折中に、対向車が自転車の走行する車線から離れた車線を走行しているとき
 - ・右折中に、自転車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき
 - ・右左折中に、横断歩行者が自転車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
 - ・移動する自転車が集団で前方にいるとき
 - ・歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
 - ・対象物が対向車であっても、対象物とシステムが認識する前に、自転車が対向車の進行路に進入している場合
 - ・対象物が対向車であっても、自転車が対向車線に進入している場合
 - ・前方車両^{*}や歩行者との距離が極端に短いとき
 - ・自転車の前方に車両^{*}や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
 - ・急加速やハンドル操作をしながら、前方車両^{*}、歩行者に接近したとき
 - ・前方車両^{*}の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
 - ・小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
 - ・水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・自転車が車線変更を行い、前方車両^{*}のすぐ後ろに接近したとき
 - ・前方車両^{*}が急ハンドル、急加速、急減速したとき
 - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
 - ・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
 - ・前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
 - ・車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
 - ・荷台におろりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
 - ・後端から積荷が飛び出している車両などのとき
 - ・車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき

⚠ 警告

- ・二輪車が横向きに走行しているとき
 - ・二輪車や自転車、または歩行者が斜めに走行・横断しているとき
 - ・歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
 - ・対向車※ やバックしてくる車両などのとき
 - ・車高の低い車両などのとき
 - ・停車している車両※ の前に壁などがあるとき
 - ・重い荷物を積むなど、前方車両※ が傾いているとき
 - ・二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
 - ・二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
 - ・二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
 - ・身長の子供や高身長の子の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
 - ・歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
 - ・歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
 - ・集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
 - ・ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
 - ・周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
 - ・対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）
 - ・上方に構造物がある場所の下に対象物がいるとき
 - ・対象物が複数重なっているとき
 - ・2人以上乗車している自転車
- タイヤ径が小さい二輪車※ や全長が長い二輪車※ のとき
 - 歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき
 - 二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

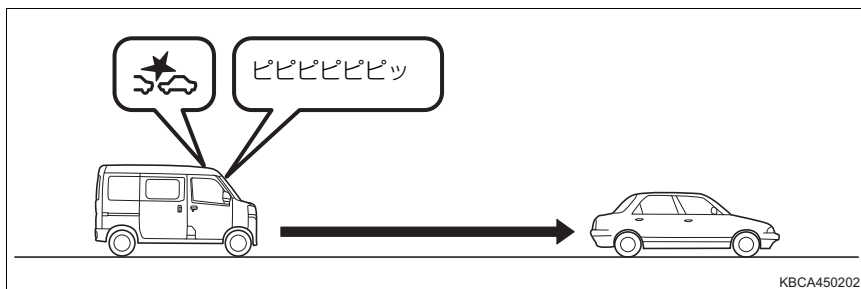
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

①～④の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

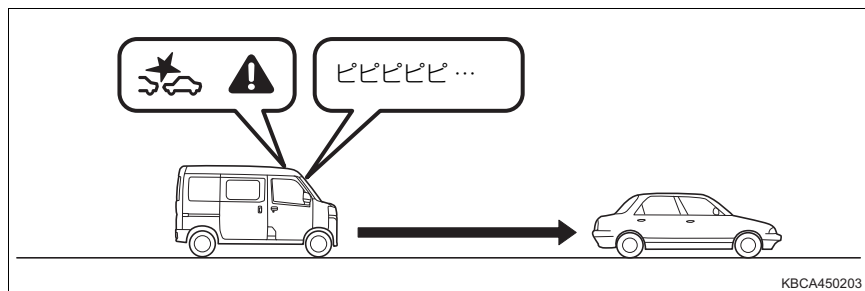
① 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 87）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

2 1次ブレーキ

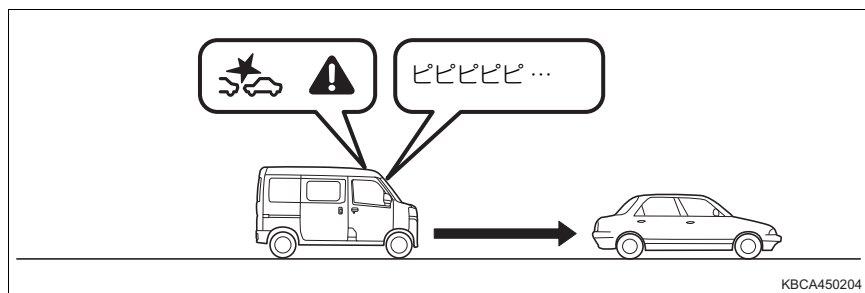


前方車両※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- ・前方車両※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。

※ 二輪車、自転車を含む

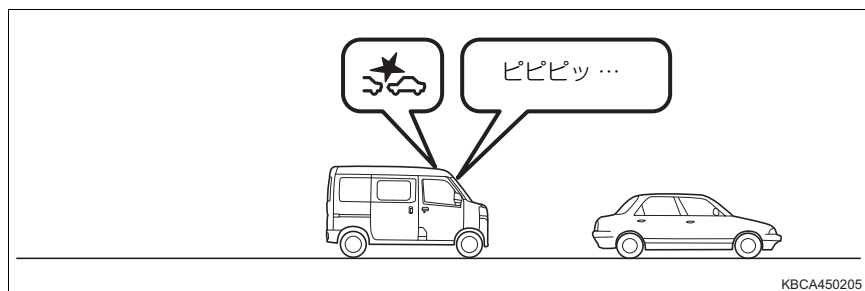
3 2次ブレーキ



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



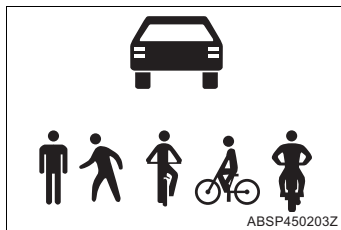
停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。*

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリーブ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

※ アクセルペダルを踏んだときも、ブレーキ制御が解除される場合があります。

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは対象物の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、対象物の動き・姿勢・角度などによっては、対象物を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、交差点衝突回避支援の作動条件 自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- パワースイッチが“ON”のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- メーター内の VSC OFF 表示灯が消灯しているとき
- シフトポジションが P・R 以外のとき
- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援以外の場合）

機能	対象	作動車速、速度差※ ¹
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※ ²	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
衝突回避支援 ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※ ²	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
被害軽減 ブレーキアシスト※ ³	対車両	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者※ ²	約 30 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 30 ～ 120km/h

- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援の場合）

機能	対象	作動車速度	対向車速度
衝突警報機能	対車両※ ⁴	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—
衝突回避支援 ブレーキ機能	対車両※ ⁴	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—

※¹ 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※² 昼間、夜間対応

※³ 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

※⁴ 方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

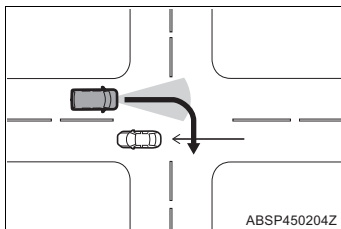
■衝突回避支援ブレーキについて

- 状況によっては、1次ブレーキや2次ブレーキから作動することがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

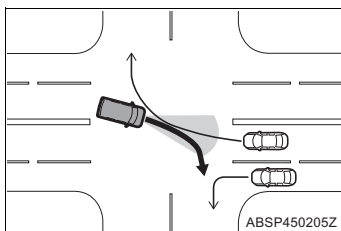
■衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

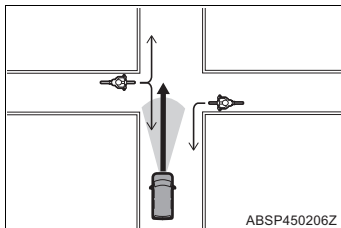
- 左折、または右折している前方車両^{*}がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 先行車^{*}を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 車線変更や右左折している前方車両^{*}などを追い抜くとき
- 右左折待ちの前方車両^{*}などとすれ違うとき
- 前方車両^{*}、横断歩行者などの対象物が自車進路内に入る手前で停止したとき
- 道路上方に物体（道路標識、看板、または樹木の枝など）がある場所を走行するとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車や歩行者の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき
- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- カーブの入口や道路脇に対象物が存在するとき
- 前方の壁に対象物と区別が付きにくい映り込みやペイントがあるとき
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が通過したとき



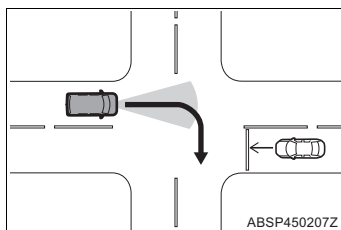
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に右左折する対向車とすれ違ったとき



- 車両^{*} 歩行者が自車の前に飛び出して来る直前に、向きを変えて合流またはすれ違ったとき



- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が交差点手前で減速または停止したとき



- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまり、洗車機など、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両※に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両※などの横を至近距離で通過するときや対向車※が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車※があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあつた場合
- 複数台の前方車両※などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 前方車両※の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両※と車両※、車両※と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- すれ違う歩行者、前方車両※の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両※のとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

⚠ 警告

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能について

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナセンサでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナセンサのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナセンサのブザーが鳴っていないくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのかけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。（→ P. 86）
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- EV システム出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。（→ P. 18）

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- 車両や二輪車などの急な割り込み、歩行者の飛び出し
- EV システム始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ・ ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき

警告

- ・ 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ・ ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 雨滴やウィンドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることに
より、障害物の認識が不完全になったとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさ
えぎられたとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 前方車両などの水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ほこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - ・ 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - ・ 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - ・ 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
 - ・ 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - ・ ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
 - ・ しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
 - ・ 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
 - ・ 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自転車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障
害物に接近し過ぎたとき（自転車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でない
こともあります）
 - ・ 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
 - ・ 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
 - ・ 自転車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）
- ・ 背の低い障害物
 - ・ 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
 - ・ 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
 - ・ 急に前方に現れたもの
 - ・ 車両前方を横切るもの
 - ・ 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
 - ・ 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
 - ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
 - ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
- ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエン
ジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたとき
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠ 警告

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配・凹凸など）
- 車両の状態（積載・乗員など）
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- EV システム始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたとき
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

⚠ 警告

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能について

- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は、車線・道路※の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能に頼っていると、車線・道路※の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

車線または道路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱抑制制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制制御機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制制御機能が作動しなかったり、制御タイミングが運転者の意思と異なるように感じる可能性があります。

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合があります。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- 車線／道路の幅が狭いときや広いとき
- 方向指示レバーを使用しているとき
- 急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
- ハンドルに異常な振動を感じる時、または通常よりもハンドルが重いと感じる時
- ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリを取り付けているとき

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線または道路※を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - ・ 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - ・ 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - ・ 車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・ 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき

⚠ 警告

- ・坂道や丘の頂上に近付いているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
- ・路上のもの（緑石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
- ・道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- ・分岐・合流路などを走行するとき
- ・急なカーブのある道路を走行するとき
- ・カーブの形状が変化するとき
- ・道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき
- ステレオカメラが認識にくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用後、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・先行車との車間距離が短いとき
 - ・自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
 - ・ステレオカメラが高温になったとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路釘）や置き石などがあるとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 隣車線から車が割り込んできたとき
- 路肩に緑石や側壁があるとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- 白（黄）線が緑石などの上に引かれているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 区画線に急に接近する場合
- 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき

※ アスファルトと草・土などの境界

ふらつき警報

⚠ 警告

■ ふらつき警報について

ふらつき警報を過信しないでください。ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。

先行車発進お知らせ機能

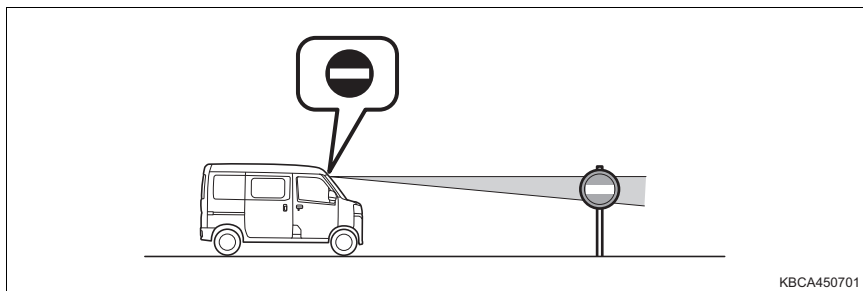
⚠ 警告

■ 先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって特定の道路標識を認識し、ディスプレイに表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。状況によっては、道路標識の表示が正常に作動しない場合があります。



⚠ 警告

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）をお使いになる前に

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者ご自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）に頼らず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

 : 最高速度

 : 車両進入禁止

 : 一時停止

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- パワースイッチが「ON」のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定で、「標識認識機能」を「ON」にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 車速が次のとき
 - ・ 車両進入禁止、一時停止：約 60km/h 以下
 - ・ 最高速度：0km/h 以上
- シフトポジションが D のとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動終了

次の状況になってから一定の時間が経過したときは、標識の表示が消えます。

▶ 最高速度

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折などにより走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 補助標識（終わり）を認識したとき
- シフトポジションを D 以外にしたとき

▶ 車両進入禁止

- 車両進入禁止標識を通過したとき
- シフトポジションを D 以外にしたとき
- 方向指示レバーを操作したとき

▶ 一時停止

- 一時停止標識を通過したとき
- シフトポジションを D 以外にしたとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では標識を正確に認識できず、標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 最高速度標識の速度と車速が大きく離れているとき
- 標識の手前で減速したときや、右左折前、右左折後
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 認識対象の標識の色、形、数字に似たものが周辺にある場合（類いの標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）
- 補助標識が設置されている場合
- 電光標識に数字が表示されていない場合
- ロータリー（環状交差点）を走行しているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状況（特に次のような場合）
 - ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - ・ ステレオカメラが標識を認識する時間が短いとき
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面またはステレオカメラ付近が覆われているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に標識に接近するとき
 - ・ 屋内の駐車場など暗い場所で標識に接近するとき
 - ・ トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ 強い光が路面に反射しているとき



- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
 - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ほこりなど視界が十分でないとき
 - 前方車両の後ろ部分にステッカーが貼ってあるとき
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 標識の状態（特に次のような場合）
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
 - 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
 - 標識の向きが変わっているとき
 - 標識が破損しているとき
 - 標識のまわりが込み入って見つけにくいとき
 - 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
 - 標識の上や下に、規制や条件などを示す補助標識が設置されているとき
 - 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
 - 標識が高い位置にあるとき
 - 標識が低い位置にあるとき
 - 標識が急な上り坂、急な下り坂にあるとき
 - 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
 - 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
 - 標識が自転車から遠く離れた位置にあるとき
 - 小さいサイズの標識のとき
 - 電光標識のコントラストが低いとき
 - 電光標識が極端に明るい、または暗いとき
 - 側道の標識がステレオカメラの認識範囲内に入ったとき
 - トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更など）が誤って判断されたとき
- ヘッドランプの汚れなどで照射が弱いときや光軸がずれているとき

知識

■ ブザーが「ビビビ、ビビビ、ビビビ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方 1 か所表示されるか、前方 2 か所または後方 2 か所同時に表示されたときは※

- コーナーセンサーの機能が低下しています。

コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。

- マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 状態により「ソナーセンサー機能低下」、「ソナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

※ 前方 2 か所および後方 1 か所、前方 2 か所および後方 2 か所、後方 3 か所、または 5 か所同時に表示されたときも含まれます。

警告

■ コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けしないでください。
- 「ソナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
 - ・ 地面から高い位置に存在する障害物のとき
 - ・ 背の低い障害物のとき
 - ・ 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
 - ・ 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
 - ・ 障害物の面が車両に対して斜めのとき
 - ・ 地面に対して垂直でない壁のとき
 - ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
 - ・ 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
 - ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき

⚠ 警告

- ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

- コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

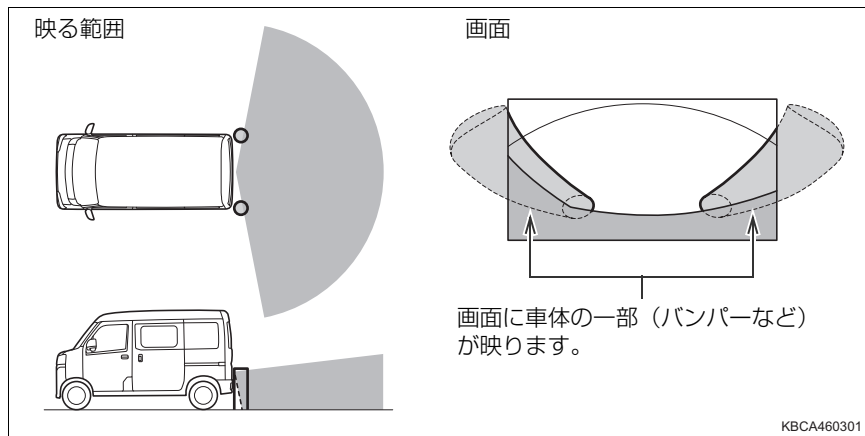
バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ナビゲーションシステム、またはスマートインナーミラー★の画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



- 車や路面の状況により、映る範囲は異なる場合があります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

⚠ 警告

■ バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

- 次のような状況では、使用しないでください。

- ・ 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
- ・ タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
- ・ バックドアが完全に閉まっていないとき
- ・ 坂道など平坦でない路面

- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ スマートアシスト

→ P. 84

◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離を取ってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■ TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナル（→ P. 110）が作動しないことがあります。

■ VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 183）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転

警告

■ ブレーキが凍結したとき

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキは避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6-1. オーディオの基本操作

ステアリングスイッチ …… 114

6-1. オーディオの基本操作

ステアリングスイッチ★

警告

■ 事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

7-1. エアコンの使い方

オートエアコン 116

シートヒーター 117

7-2. 収納装備

収納装備一覧 118

ラゲージルーム内装備 120

7-3. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 120

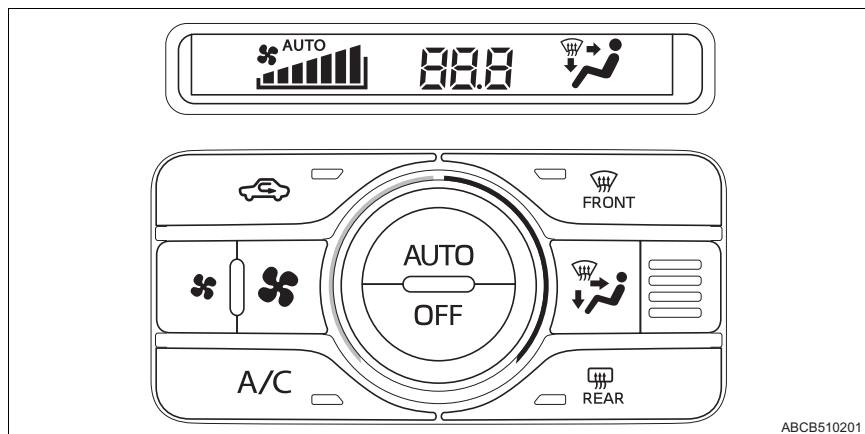
アクセサリーコンセント
(AC100V 1500W)・

非常時給電システム 121

7-1. エアコンの使い方

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



その他の機能

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

  を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度   を押すと、前のモードに戻ります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

その場合は **A/C**  を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

- **A/C**  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ エアコン使用時の流水音

エアコン使用時に“ポコポコ”、“ジュルジュル”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

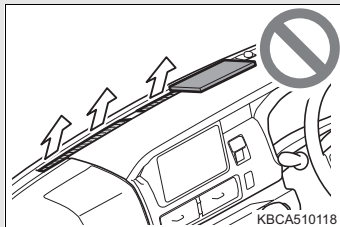
- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでくだ

さい。また、吹き出し口を  に切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



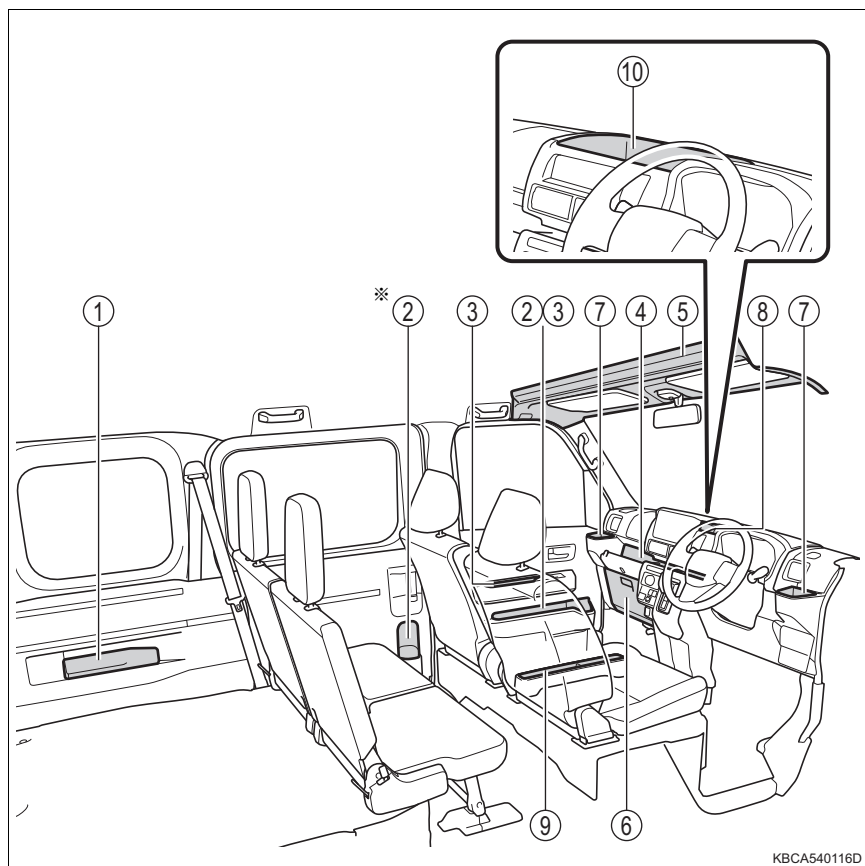
シートヒーター

⚠ 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続で使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

7-2. 収納装備

収納装備一覧



KBCA540116D

※ イージークローザー装着車

① デッキサイドポケット★ (→ P. 120)

② ボトルホルダー (→ P. 119)

③ ドアポケット (→ P. 119)

④ 助手席トレイ/センタートレイ (→ P. 119)

⑤ オーバーヘッドシェルフ (→ P. 119)

⑥ グローブボックス

⑦ カップホルダー (→ P. 119)

⑧ 運転席左側ポケット★ (→ P. 119)

⑨ コンソールトレイ (→ P. 119)

⑩ アップパートレイ★ (→ P. 119)

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスが漏れるなどして火災につながる
- 走行中にもものを出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 収納装備を使わないときは、ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オーバーヘッドシェルフ

⚠ 警告

■ オーバーヘッドシェルフについて

- オーバーヘッドシェルフにぶら下がったり、体重をかけたりしないでください。収納物が落ちてけがをするおそれがあります。
- 加速したときなどの走行時に、収納物がすべり落ちてけがをしないよう、次のことを守ってください。
 - ・ オーバーヘッドシェルフ内に固いものや鋭利なものを収納しないでください。
 - ・ オーバーヘッドシェルフ内に本や雑誌などを重ねて収納しないでください。
 - ・ 缶ジュースなどの転がりやすいものを収納しないでください。

アッパートレイ★

⚠ 警告

走行中はアッパートレイにもものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー／ボトルホルダー

⚠ 警告

- カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。
- 運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はホルダー内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ

⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

デッキサイドポケット★

警告

走行中はポケット内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

7-3. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備

サンバイザー

警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあります。
- サンバイザーのチケットホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあります。
- 走行中はバニティミラーを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

アームレスト★

警告

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

USB ソケット（充電用）

警告

- USB ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあります。

アシストグリップ／乗降グリップ

警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるなど时使用しないでください。
アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

ショッピングフック

警告

- ショッピングフックを使用しないときは
けがをしないように、必ずもとの位置に戻しておいてください。

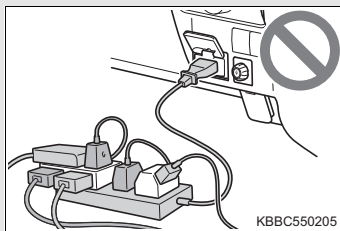
⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止などにより室内が高温、または低温になる場合があります。熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差ししたりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントを利用して、電気自動車やプラグインハイブリッド車への普通充電は絶対に行わないでください。また、家屋内の電力線や配電盤をつなぐことは絶対にしないでください。感電や故障につながるおそれがあります。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはダイハツサービス工場にご相談ください。
- お子さまにコンセントを触れさせないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃に触れないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しない
 - ・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す



- アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- コンセントに飲み物などをこぼしたりしないでください。感電、発煙や発火のおそれがあります。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

■接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

■電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切り替え (50/60Hz) 機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切り替えが必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

警告

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトポジションをPから切り替えないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性のある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 粉じんの多い場所や直射日光の当たる場所では使用しないでください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。雨や水でコンセントがぬれると感電するおそれがあります。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ・ 雨水の浸入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
 - ・ コードを窓やドアで挟まない
 - ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする
 - ・ 誤って車両を発進させない
- 洗車は行わないでください。
- ボンネット、および点検口が閉まっていることを確認してください。
また、点検口内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急に回りだすことがあります。ファンの回転部分に触れたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 外部給電アタッチメント使用時は、必ず非常時給電システムを作動させて車両の走行機能を停止させてください。

■ 走行中に使用するとき（アクセサリコンセント）

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転の妨げになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
 - ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
 - ・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライバー・ACアダプター・マウスなど）
 - ・ 強い光が目に入り、視界の妨げになるおそれがある場合（照明器具など）
また、使用しない場合であっても、調理機器などに内容物を入れたまま走行しないでください。
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

8-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ	124
内装のお手入れ	124

8-2. 簡単な点検・部品交換

点検口	124
ボンネット	125
ウォッシャー液の補充	126
タイヤについて	126
タイヤの交換	128
タイヤ空気圧について	131
キーの電池交換	131
ヒューズの点検・交換	133
電球（バルブ）の交換	133

8-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ

警告

■ 洗車をするとき

- 点検口内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

内装のお手入れ

知識

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 21)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

8-2. 簡単な点検・部品交換

点検口

警告

■ 走行前の確認

点検口を閉めたあとは、確実にロックされていることを確認してから走行してください。確実にロックされていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずダイハツサービス工場にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後の点検口内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 点検口を点検したあとは

EVシステム始動前に点検口内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、点検口内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあります。

また、走行中に点検口内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

→ P. 177

■ フロントシートを持ち上げるときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にフロントシートを持ち上げない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- お子さまに操作させない

■ フロントシートを下ろすときは

フロントシートを下ろすときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

ボンネット

⚠ 警告

■ 走行前の確認

- ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

■ けがを防ぐために

走行後のボンネット内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

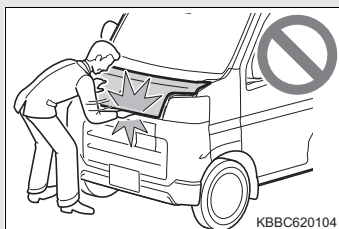
■ ボンネット内点検後の確認

EVシステム始動前にボンネット内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、ボンネット内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあります。

また、走行中にボンネット内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあります。



ウォッシャー液の補充

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかるると出火するおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

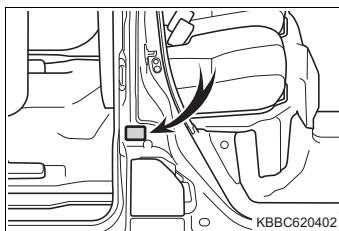
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

📖 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
145/80R12 86/84N LT	300 (3.0)	450 (4.5)

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ空気圧の点検

- 1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- 他車で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横滑りする
- 車両の本来の性能（電費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→ P. 130）

テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
この車両には、ジャッキ※、ジャッキハンドル※、ホイールナットレンチ※が搭載されていません。

※ ダイハツサービス工場で購入することができます。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

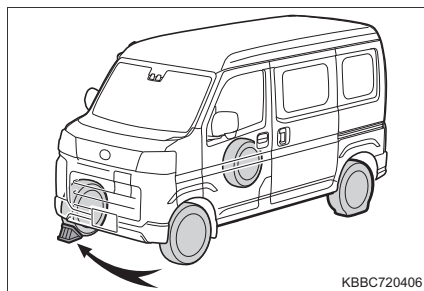
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使用しない
- 他車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置（→ P. 129）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- お車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にもものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

タイヤの交換

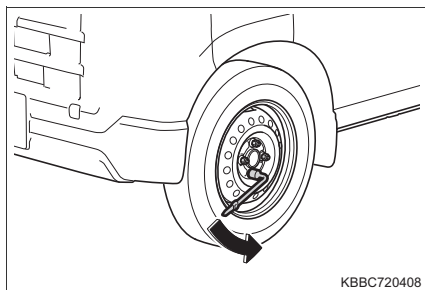
① 輪止め※ をする



※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

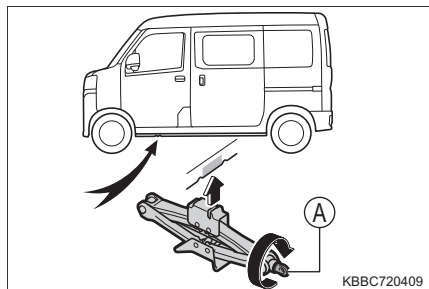
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

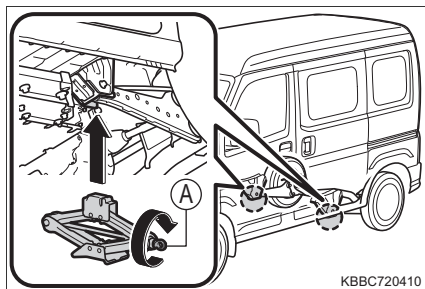


3 ジャッキのA部を手で回して、ジャッキをジャッキセット位置にしっかりかける

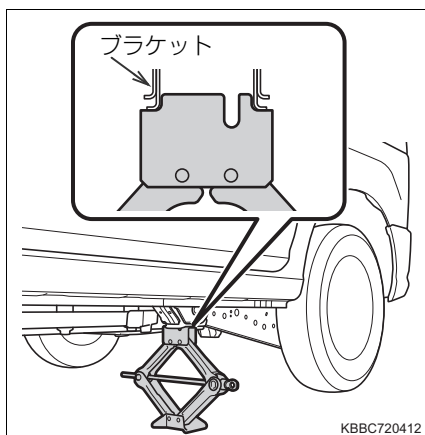
▶ フロント側ジャッキセット位置



▶ リヤ側ジャッキセット位置

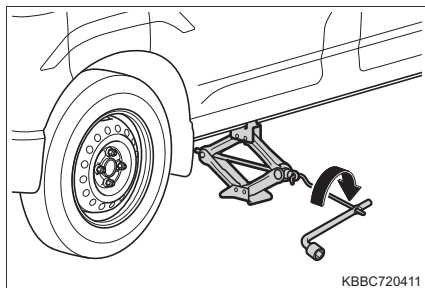


- ・フロント側は、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にかけてください。
- ・リヤ側は、図のようにジャッキ頭部をブラケットにかけてください。

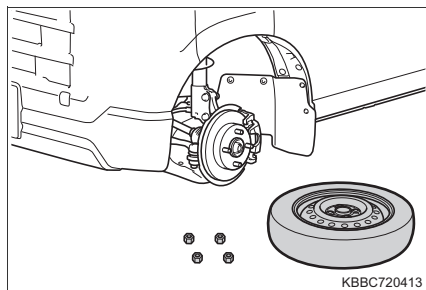


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

- ・ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。
- ・ジャッキハンドルはジャッキに対し、まっすぐにして回してください。



- 5 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



KBBC720413

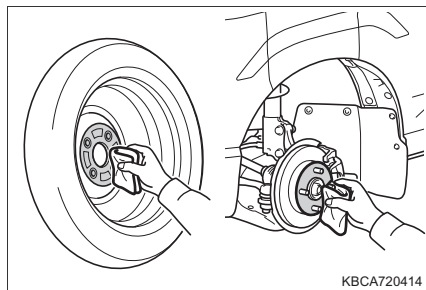
警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ネジ部やナットのテーパ部オイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける

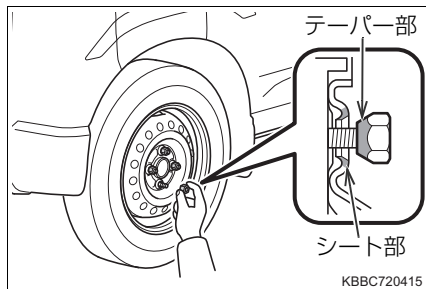
タイヤの取り付け

- 1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。



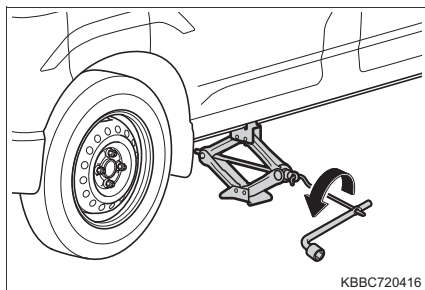
KBBCA720414

- 2 タイヤを取り付け、タイヤがたつかない程度まで手でナットを仮締める
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す

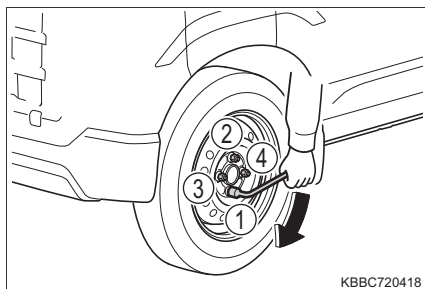


KBBC720415

3 車体を下げる



- 4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける
締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）



- 5 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- 薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
- エマージェンシーキー
- リチウム電池 CR2032

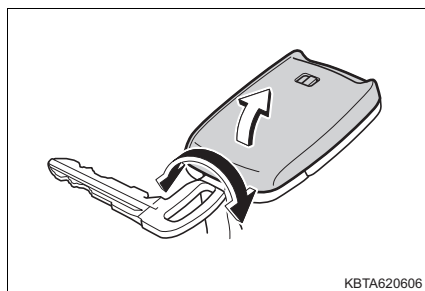
電池交換のしかた

1 エマージェンシーキーを取り出す (→ P. 56)

2 カバーを外す

ダイハツマーク側を下にして外してください。
エマージェンシーキーをしっかりと奥まで差し込んでください。

傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーに布などを巻いて保護してください。

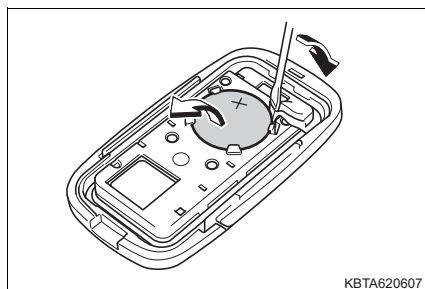


3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

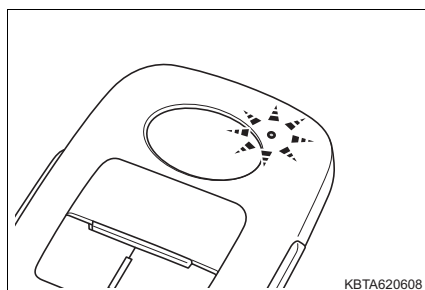
カバーを外したときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。



4 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



⚠ 警告

■ 電子カードキーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子カードキーにはコイン電池またはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取り外した電池は、お子さまに触れさせないでください。
- カバーがしっかりと閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

ヒューズの点検・交換

⚠ 警告

■ お車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

電球（バルブ）の交換

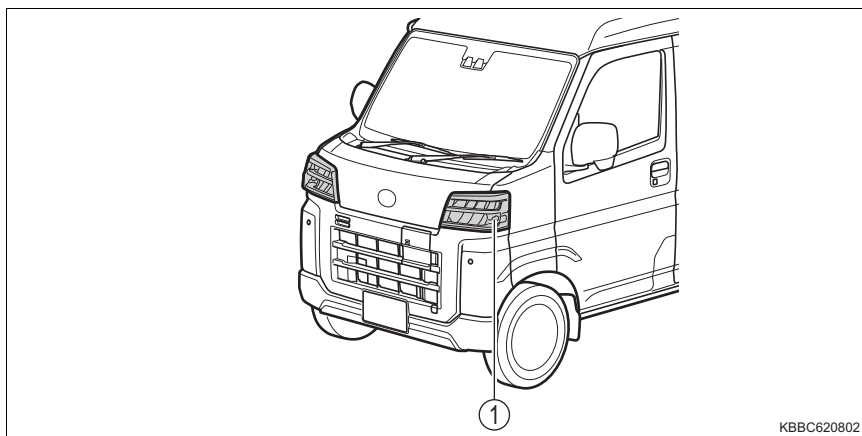
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 183）

バルブ位置

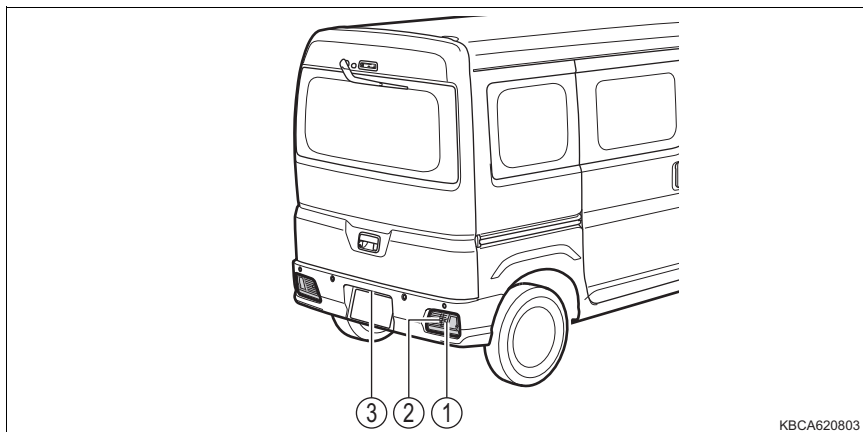
■ フロント



KBBC620802

① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ

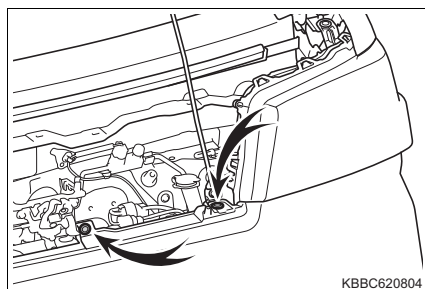


- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

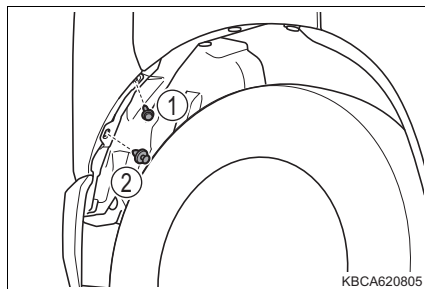
電球交換のしかた

■ フロント方向指示／非常点滅灯

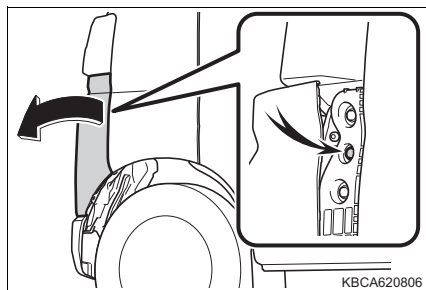
- ① クリップ（2 個）を取り外す



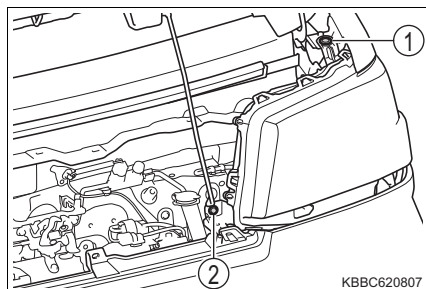
- ② ボルト（①）とクリップ（②）を取り外す



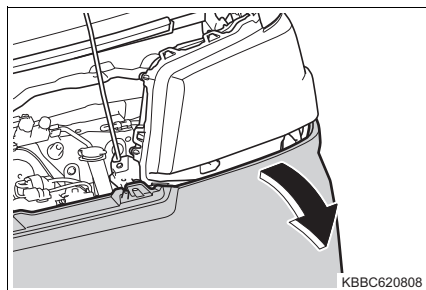
- 3 フロントバンパーを矢印の方向にめくって、ボルトを取り外す



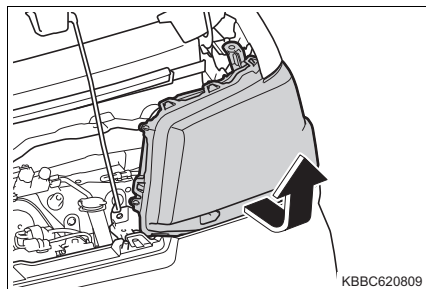
- 4 クリップ (①) とボルト (②) を取り外す



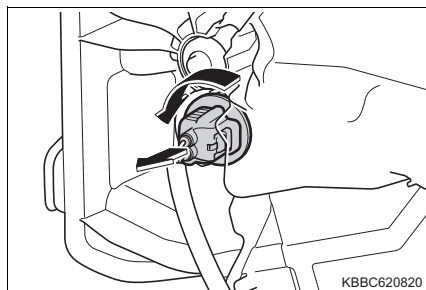
- 5 フロントバンパーを矢印の方向にめくる



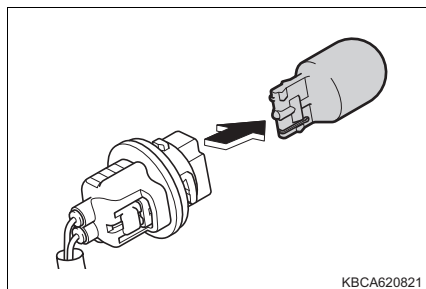
- 6 ランプ本体を取り外す



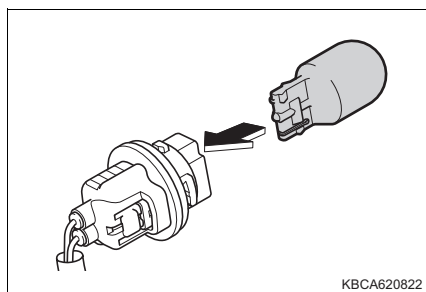
7 ソケットを回して取り外す



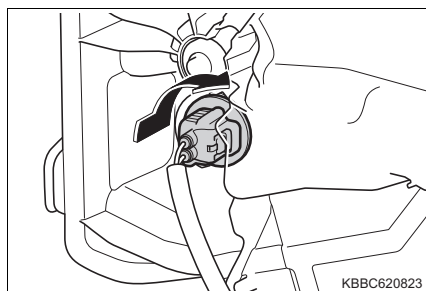
8 電球を取り外す



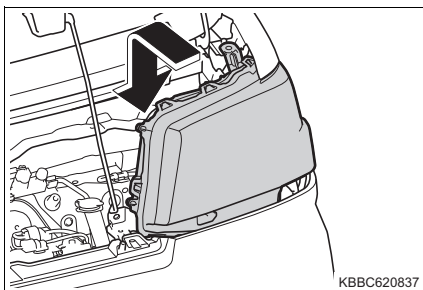
9 新しい電球を取り付ける



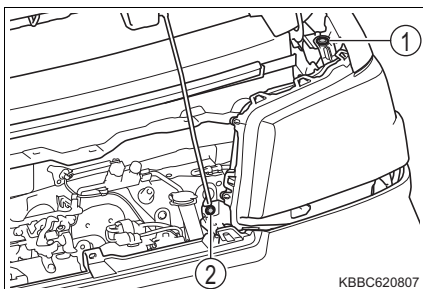
10 ソケットを回して取り付ける



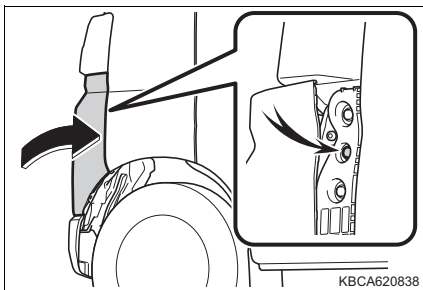
11 ランプ本体を取り付ける



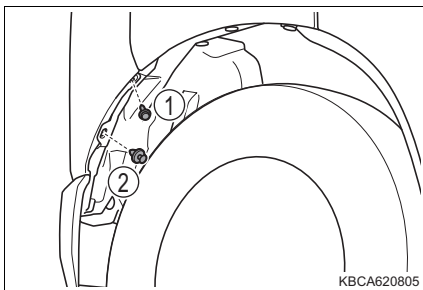
12 ヘッドランプのクリップ (①) とボルト (②) を取り付ける



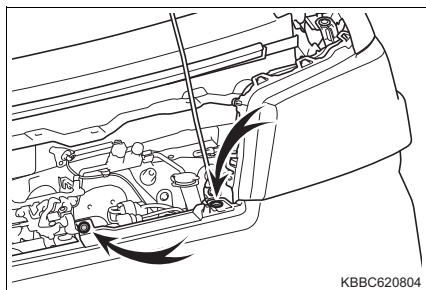
13 ボルトとフロントバンパーを取り付ける



14 ボルト (①) とクリップ (②) を取り付ける

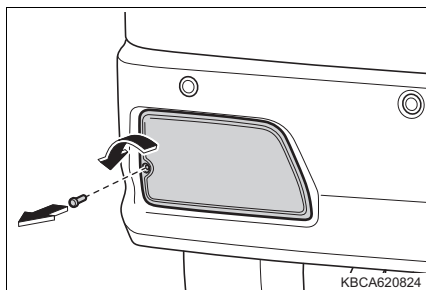


15 クリップ（2 個）を取り付ける

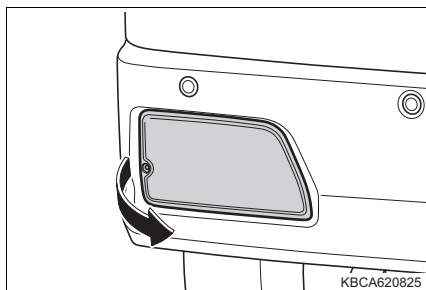


■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

1 ネジを取り外す

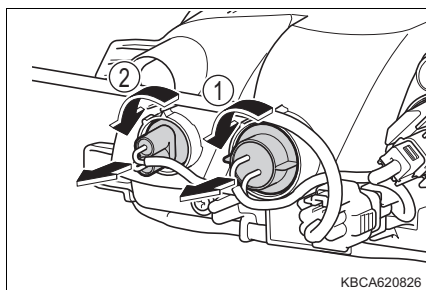


2 ランプ本体を矢印の方向に引き、取り外す



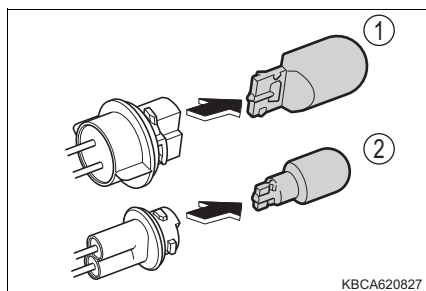
3 ソケットを取り外す

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



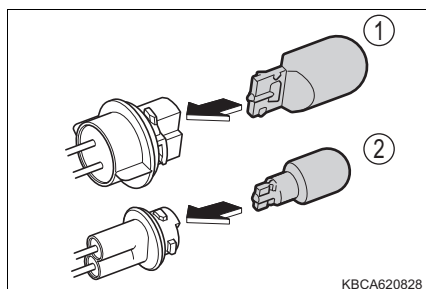
4 電球を取り外す

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



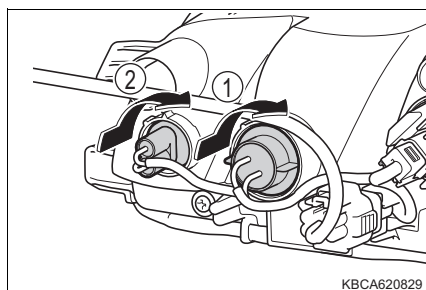
5 電球を交換し取り付け

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

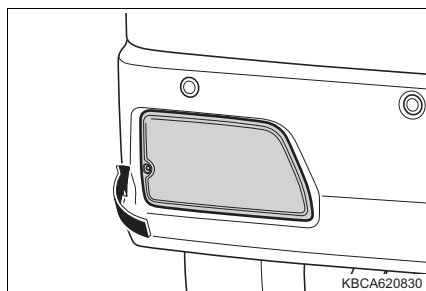


6 ソケットを取り付ける

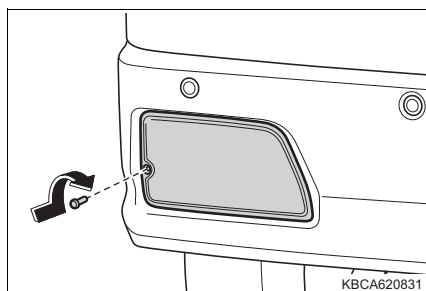
- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



7 ランプ本体を矢印の方向に取り付ける

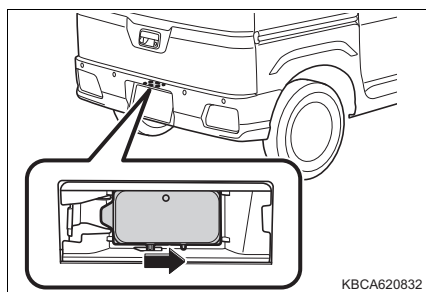


8 ネジを取り付ける

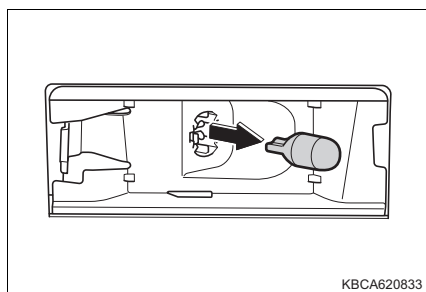


■ 番号灯

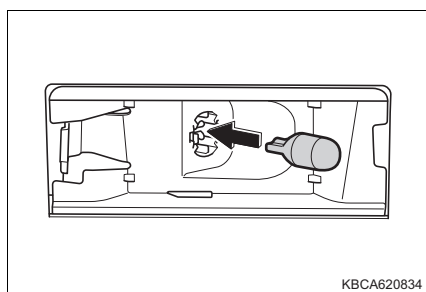
1 レンズをスライドして取り外す



2 電球を取り外す

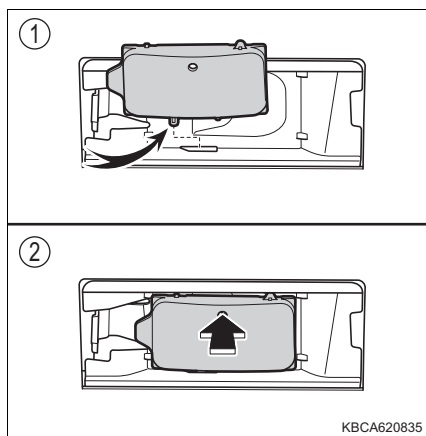


3 新しい電球を取り付ける



4 レンズを取り付ける

レンズの突起部をランプ本体の溝に入れ (①)、矢印の方向に押し (②) 取り付ける



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ヘッドランプハイビーム／ロービーム
- 車幅灯
- サイド方向指示／非常点滅灯★
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ
- フロントフォグランプ★
- サイドビューランプ



知識

■ ヘッドランプについて

ヘッドランプを固定しているボルトには、ゆるみ止め剤が使用されています。
ヘッドランプを脱着するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

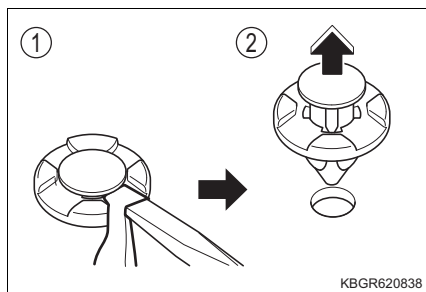
■ LED ランプについて

LED ヘッドランプ、ハイマウントストップランプ、サイド方向指示／非常点滅灯★は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

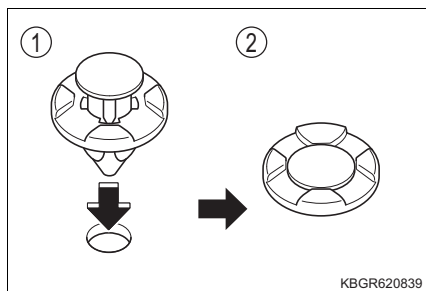
■ クリップを取り外し、取り付けするときは

- クリップを取り外すときは、マイナスドライバーなどを使ってクリップの中心部を引き出し (①)、クリップを引き抜いて (②) ください。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

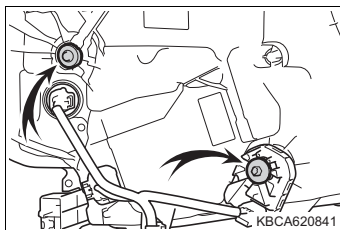


- クリップを取り付けるときは、クリップを差し込み(①)、中心部を押して(②)ください。



■ ヘッドランプを交換するときは

ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用ネジに触れないでください。
電球を交換したあとはダイハツサービス工場ヘッドランプ光軸の点検を受けてください。



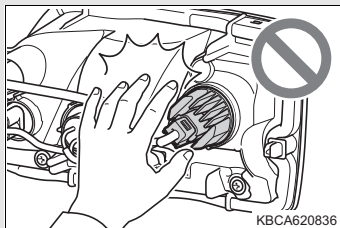
⚠ 警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 後退灯、リヤ方向指示／非常点滅灯の電球を交換するときは

制動灯／尾灯の消灯直後は、裏側の放熱板が高温になるため、触れないでください。やけどをすることがあります。



■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

9-1. まず初めに

故障したときは	144
発炎筒	144
車両を緊急停止するには	145
水没・冠水したときは	146
車中泊が必要なときは	147

9-2. 緊急時の対処法

けん引について	147
警告灯がついたときは	148
警告メッセージが 表示されたときは	150
「スマアシ停止」が 表示されたときは	165
パンクしたときは	167
EV システムが 始動できないときは	174
電子カードキーが 正常に働かないときは	175
補機バッテリーが あがったときは	176
オーバーヒート したときは	178
スタックしたときは	180

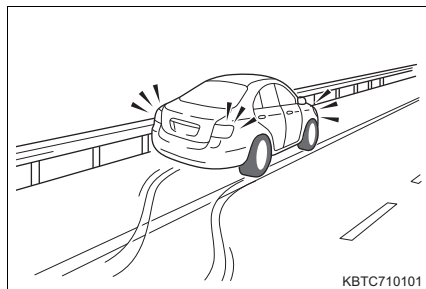
9-1. まず初めに

故障したときは

故障のときはただちに次の指示に従ってください。

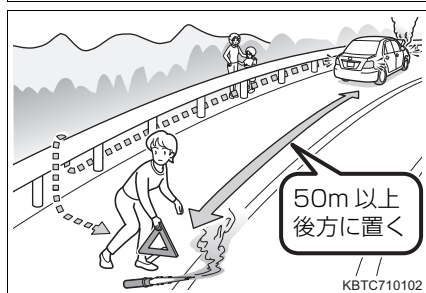
非常点滅灯を点滅させながら、お車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 144）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・発炎筒は、燃料漏れの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

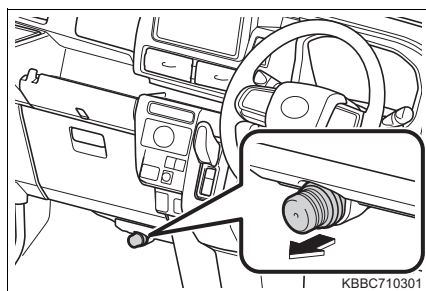


発炎筒

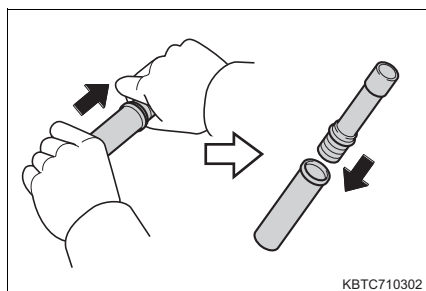
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

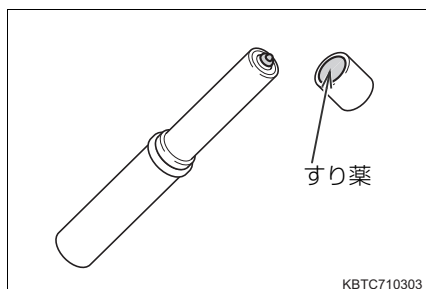
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む



- 3 先端のふたを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける
ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトポジションを N にする
 - ▶ シフトポジションが N になった場合
- 3 減速後、お車を安全な道路脇に停める
- 4 EV システムを停止する

▶シフトポジションがNにならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを3秒以上長押しするか、素早く3回以上連続で押してEVシステムを停止する



5 お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずEVシステムを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。EVシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内にとどまると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

📖 知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドア★が作動しなくなったり、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

9-2. 緊急時の対処法

けん引について

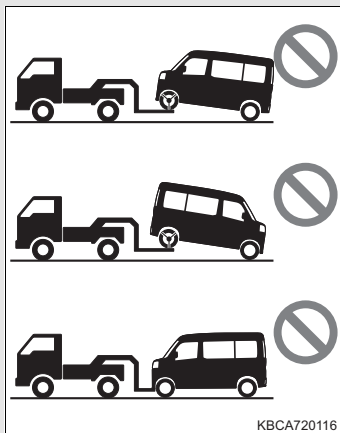
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、お車の向きが変わり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを“OFF”にしないでください。
パーキングロックにより、後輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー※1） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキシステムの異常 ・電動負圧ポンプシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 (黄色)	ブレーキ警告灯 電動負圧ポンプシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (ABS)	ABS 警告灯 ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (赤色)	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
※2  (黄色)	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
 (黄色)	ADB 警告灯 ADB の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)  (点滅) 	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 マスターウォーニング スマートアシストの一部機能の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点灯)  (点灯) 	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 スマートアシスト停止警告灯 スマートアシストの機能停止 → 表示された各機能停止コードごとに対処してください。(→ P. 165)
 (点灯)	スリップ表示灯 ・ブレーキアシストの異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 (VSC・TRC 作動時は点滅します) ・ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	手放し運転警告灯 (警告ブザー) ハンドルの手放し運転をしている → ハンドルをしっかりと握って操作してください。
	電池残量警告灯 駆動用電池の残量や状態から充電が必要 (低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります) → 駆動用電池を充電してください。 → さらに残量が低下すると、EV システムの出力が制限されます。
	運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯※3 (警告ブザー※4) 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
	後席シートベルト締め忘れ警告灯★※5、6 (警告ブザー※7) 後席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
	パーキングブレーキ未解除警告灯 (警告ブザー※8) パーキングブレーキがかかっているとき → パーキングブレーキを解除する

- ※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。
- ※2 パワーステアリング警告灯 (黄色)：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。
- ※4 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

- ※5 インstrumentパネル中央に表示されます。
- ※6 後席シートベルト締め忘れ警告灯★：
 後席シートベルトが非装着の状態で、パワースイッチを“ON”にしたとき、または後席シートベルトを外すと点灯します。
 後席シートベルトを着用する、または車速約 20km/h 以上で走行後約 60 秒経過（警告ブザーが鳴っている場合は約 30 秒経過）すると消灯します。
 また、約 5km/h 以下で後席シートベルトを外し、リヤドアを開閉すると点灯します。
- ※7 後席シートベルト締め忘れ警告ブザー★：
 車速が約 20km/h 以上で乗員が後席シートベルトを外すと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 20km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
 後席シートベルトを着用する、または約 5km/h 以下でリヤドアを開閉すると、ブザーが停止します。
- ※8 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
 パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

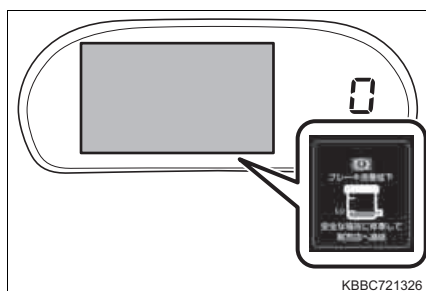
⚠ 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いとときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



KBBC721326

処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

メッセージと警告作動

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  (赤色)	ブレーキ油の不足 車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴りません。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  (赤色)	ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
  (赤色)	電動負圧ポンプシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
  (黄色)	電動負圧ポンプシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。
 	補機バッテリー充電系統の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	補機バッテリー充電システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	補機バッテリーが劣化している可能性がある → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。 → パーキングロックの機能が作動しない場合があります。駐車時は平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけてください。
 	補機バッテリーが劣化している可能性がある → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	SRS エアバッグシステムの異常 シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 販売店で点検を受けてください 	ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 販売店で点検を受けてください  (赤色)	EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ハンドルが重くなります  (黄色)	電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
 販売店で点検を受けてください 	キーフリーシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ヘッドランプ光軸異常 販売店で点検を受けてください 	自動光軸調整システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ヘッドランプシステム故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	ADB の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 スマートアシスト故障 販売店で点検を受けてください  OFF (点滅)  OFF (点滅) 	スマートアシストの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 コーナセンサ故障 販売店で点検を受けてください 	コーナセンサの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。
	車両接近通報装置の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	ブレーキアシストの異常 VSC システムの異常 TRC システムの異常 ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	車両通信システムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	車両のセンサー、ユニット系統の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 BOS故障 販売店で点検を受けてください	ブレーキオーバーライドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 DSC故障 販売店で点検を受けてください	ドライブスタートコントロールの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ブレーキとアクセルが 両方踏まれています	ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルから足を離してください。
 アクセルを 戻してください	ドライブスタートコントロールの作動時 → ただちにアクセルペダルから足を離す
 Nレンジです アクセルを緩めて 希望レンジに 切りかえてください	シフトポジションがNでアクセルペダルを踏んでいる → アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。
 回生ブレーキ制限中 ブレーキを踏んで 減速してください	回生ブレーキが制限されている 次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。 ・ 満充電により、これ以上回生ができないとき ・ 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき ・ 駆動モーターやインバーターの温度が極端に高いとき → ブレーキペダルをしっかりと踏んで減速してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 EVシステムが 高温になるため 停車時はブレーキを 踏んでください	上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持している そのままの状態を続けるとEVシステムが過熱するおそれがあります。 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
 EVシステム高温 出力制限中です	EVシステムが高温になり出力が制限されている 負荷の高い走行をしている（例えば、長い上り坂を走行）ときに表示される場合があります。アクセルペダルを踏んでも速度が上がりにくくなります。 → 安全な場所に停車し、EVシステムの冷却系統に異常がないか点検してください。（→ P. 178）
 ハンドルを 保持してください 	手放し運転をしている 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドルをしっかりと握って操作してください。
 開いています	いずれかのドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/h（スライドドアは約3km/h）を超えたときにはブザーが鳴ります。 → 全ドアを閉める
 駆動用電池残量低下 充電してください 	駆動用電池の残量や状態から充電が必要になった 低温時には、早めの充電を促すために早く表示することがあります。 → 駆動用電池を充電してください。 → さらに残量が低下すると、EVシステムの出力が制限されます。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	運転席、または助手席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えたときに表示されます。 → シートベルトを着用する
 	後席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えてシートベルトを外したときに表示されます。 → シートベルトを着用する
 	パーキングブレーキが解除されていない パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除する
 ※ 1 	衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の EV システム出力の抑制制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
	先行車発進お知らせ機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、車両を発進させる
 (点滅)	車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内に戻す

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	ふらつき警報が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内で適切な運転をする
	システムが休憩が必要と判断した → 安全な場所に停車し、休憩する
	コーナセンサ作動 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 	VSC が作動 → 特に慎重な運転をする
	車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 車幅灯を消灯する

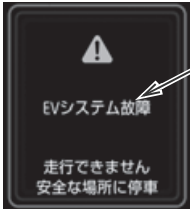
警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	停車時、ハンドルが左、または右に操作されている → タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる
	外気温が約 3℃以下になった → 路面凍結の可能性があるため、路面状況を確認し慎重な運転をする

※1 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ・2 次ブレーキ、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動したとき点灯します。

※2 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の EV システム出力制御、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の EV システム出力制御・ブレーキ制御が作動したとき点灯します。

EV システム異常のメッセージ

次の EV システム異常のメッセージが表示されたときは、表示内容に従い、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡する、またはダイハツサービス工場で点検を受けるなどの対処をしてください。

警告メッセージ（表示例）	警告内容
 警告内容 	● バッテリー系故障 ● アクセル系故障 ● プラグイン充電システム故障 ● EV システム故障 ● EV システム停止 警告ブザーが鳴ります。

次の EV システム異常のメッセージが表示されたときは、けん引による輸送をしないでください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 A black rectangular warning message box with a white triangle icon at the top. The text inside reads: "EVシステム故障" (EV System Malfunction) and "この車をけん引しないでください" (Do not tow this vehicle). EVシステム故障 この車をけん引 しないでください	EV システムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → けん引による輸送をせず、ただちにダイハツサービス工場へ連絡してください。

次の駆動用電池のメッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。そのまま放置しておくと、EV システムが始動できなくなる場合があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  A black rectangular warning message box with a white exclamation mark icon at the top. The text inside reads: "駆動用電池の点検を販売店で受けてください" (Please have the drive battery checked at a dealer). Below the box is a separate white square icon with a black triangle. 駆動用電池の点検を 販売店で受けてください	駆動用電池の機能低下 → ただちにダイハツサービス工場 で点検を受けてください。 EV システムが始動できなくなる場合があります。

シフト制御システム異常のメッセージ

次のシフト制御システム異常のメッセージが表示されたときは、表示内容に従い、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡する、またはダイハツサービス工場 で点検を受けるなどの対処をしてください。

警告メッセージ（表示例）	警告内容
 警告内容 シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認	●シフトシステム故障 ●P スイッチ故障 ●シフトシステム不動作

パーキングブレーキの対処方法のメッセージが表示された場合は、次の対処方法に従ってください。

警告メッセージ	対処方法
 対処方法	駐車時は平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかける

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		電子カードキーを携帯していない状態でEVシステムを始動しようとした → 電子カードキーを携帯する※¹
5回	3回		パワースイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた • 警告ブザーが鳴ります。 → 電子カードキーを携帯して乗車する
—	1回		車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ★でドアを施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する
—	1回		タッチ＆ゴーロック機能★使用時、施錠操作をしたあとに、電子カードキーを車内に戻した → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度タッチ＆ゴーロック機能を使用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	1 回	 車内にキーがあります	パワースイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にし、ドアを開けて閉めた → 電子カードキーを携帯して施錠する
—	1 回	 車内にキーがあります	パワースイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する
—	—	 ブレーキを踏みながら パワースイッチに 触れてください	電子カードキーを携帯していない状態で2回 EV システムを始動しようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
—	—	 バッテリー保護のため 自動で電源を OFFにしました	自動でパワースイッチが“OFF”になった パワースイッチが“ACC”のときは1時間以上、“ON”のときは20分以上経過すると表示されます。 → 次回 EV システム始動時に、約5分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電する
3 回	—	 キーの電池残量が 残りわずかです	電子カードキーの電池切れが近いときにパワースイッチを“OFF”にした ※2 警告ブザーが鳴ります。 → 新しい電池に交換する (→ P. 131)
—	—	 ハンドルを左右に回し ながらパワースイッチを 押してください	パワースイッチを押してハンドルロックが解除できなかった → ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押す

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	1 回		パワースイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ★でドアを施錠しようとした → パワースイッチを“OFF”にして施錠する

※¹ 電子カードキーが車内にあっても EV システムが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 131)

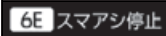
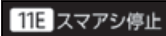
※² 電池切れが近い状態を継続すると、パワースイッチを“ACC”または“ON”にしたときも表示されます。

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

また、機能停止のメッセージを表示することができます。

機能停止コード一覧

機能停止コード	メッセージ	警告内容・対処方法
		雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
		フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰
		ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → 原因状態が解消されると復帰

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能停止コード	メッセージ	警告内容・対処方法
12E スマアシ停止	 カメラ高温 スマートアシストを 停止します	ステレオカメラ（車両前側）内が高 温になった → 原因状態が解消されると復帰
14E スマアシ停止	 初期学習中 スマートアシストを 停止します	スマートアシスト初期学習中 → しばらく走行すると復帰
15E スマアシ停止	 ソナー汚れ スマートアシストを 停止します	雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー 部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解 消されると復帰
16E スマアシ停止	 悪天候 スマートアシストを 停止します	フロントワイパーを“高速”で作動 させている → 原因状態が解消されると復帰



知識

■ 機能停止コードについて

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。通常の走行に支障はありませんが、タイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「5E」「6E」は、シフトポジションがP・R・N以外のときに表示します。
- 「11E」はシフトポジションがR以外のときに表示します。
- 「15E」「16E」はシフトポジションがRのときに表示します。
- 「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- 「5E」が表示されていても、スマートアシスト OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が表示されないことがあります。
- 「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しないことがあります。
- シフトポジションがDのときは、ワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 167)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

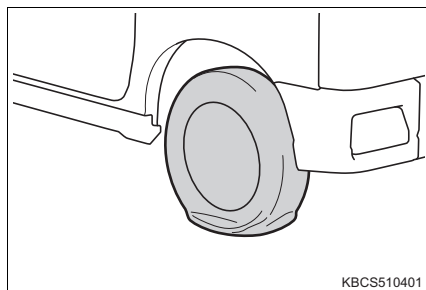
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



KBCS510401

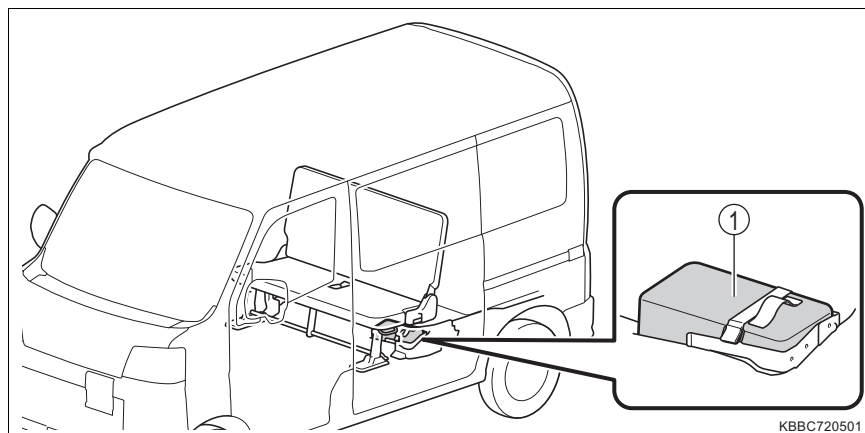
📖 知識

■ タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

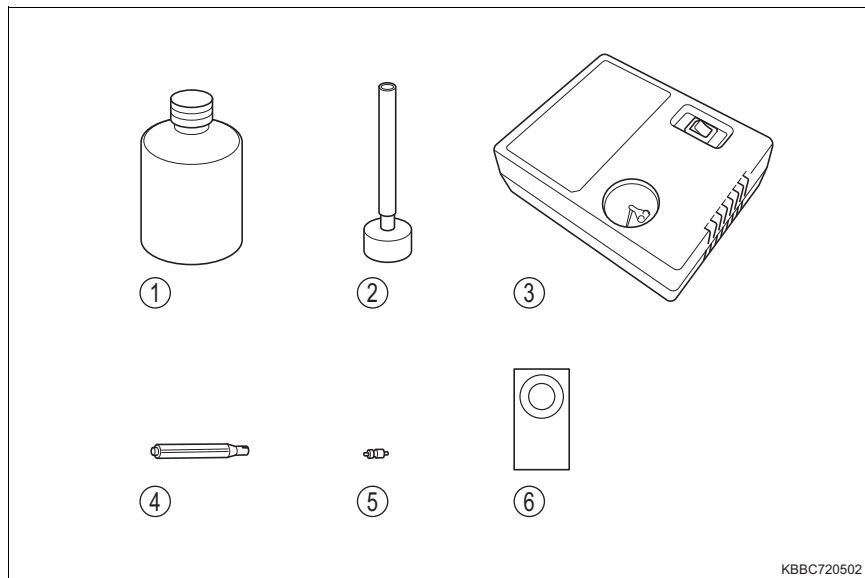
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかに外れているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- パンク修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理セットの搭載位置



① タイヤパンク応急修理セット

タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



① パンク修理剤ボトル

② 注入ホース

③ コンプレッサー

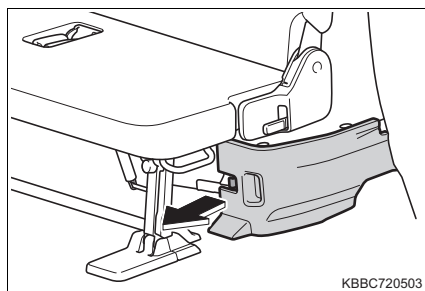
④ バルブコア回し

⑤ 予備バルブコア

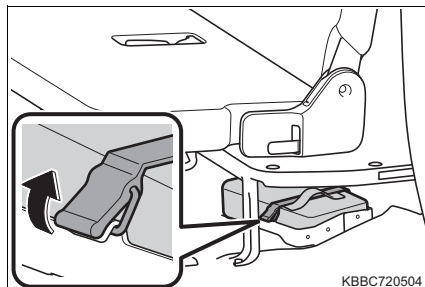
⑥ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

- 1 助手席側のスライドドアを開ける
- 2 サイドカバーのツマミ部をつまみながら矢印の方向へ取り外す（2シーター仕様車以外）

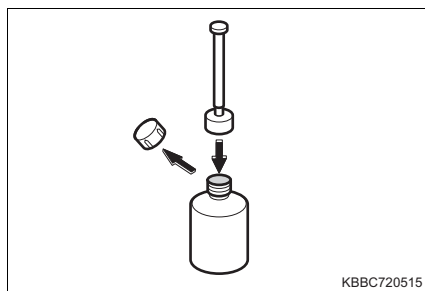


- 3 バンドを取り外し、タイヤパンク応急修理セットを取り出す

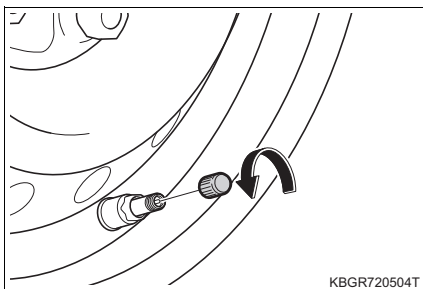


応急修理するとき

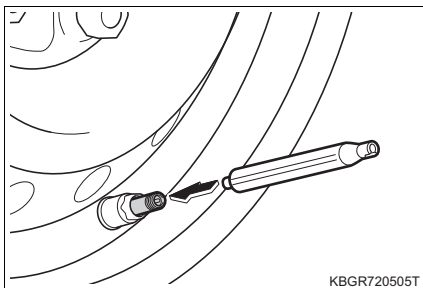
- 1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません）
- 2 パンク修理剤ボトルをよく振る
パンク修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前に振ってください。
- 3 パンク修理剤ボトルのキャップを取り外し、中ぶたを付けたまま注入ホースをねじ込む
注入ホースをねじ込むと中ぶたが破れます。



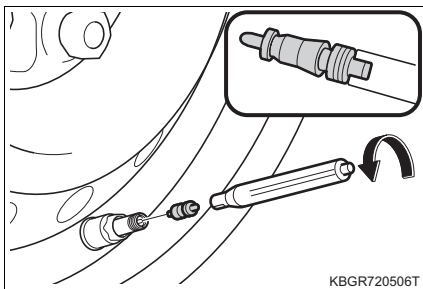
- 4 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す



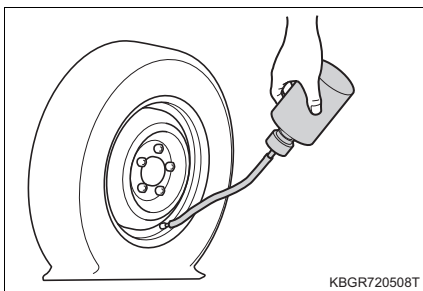
- 5 タイヤに残った空気を完全に抜く
バルブにバルブコア回しを図の向きで押し付けると空気が抜けます。



- 6 バルブコアを取り外す
バルブコア回しの溝がある部分を使ってバルブコアを回します。
タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。
バルブコアは再度使用しますので汚れないようにきれいなところに保管してください。



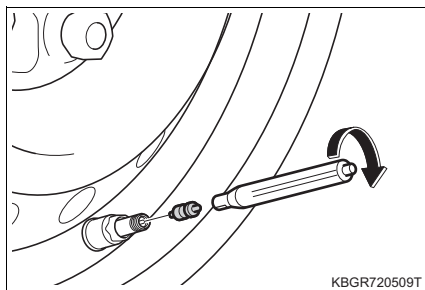
- 7 注入ホースをタイヤのバルブに差し込む
- 8 パンク修理剤をタイヤ内にすべて注入する
パンク修理剤ボトルを逆さまに持ち、手で何回も圧迫します。



- 9 注入し終わったら、注入ホースをタイヤバルブから引き抜く

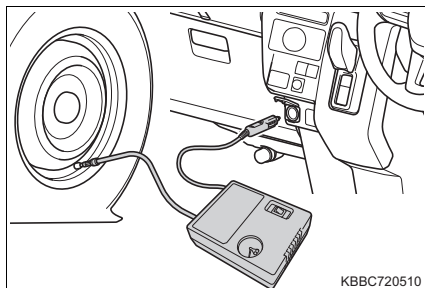
- 10 バルブコアをタイヤバルブにしっかりとねじ込む

空になったパンク修理剤ボトルは、タイヤ交換または恒久修理のときに修理剤の抜き取りに使用しますので、捨てずにダイハツサービス工場までお持ちください。



- 11 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出し、車両に接続する

ホースはタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。
電源プラグは車両のアクセサリソケットに差し込みます。



- 12 パワースイッチを“ACC”にする

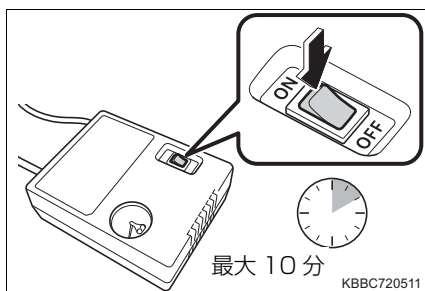
- 13 タイヤの指定空気圧を確認する

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 126)

- 14 コンプレッサーの電源をONにし、タイヤに空気を入れる

空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧まで昇圧してください。

タイヤを指定の空気圧まで昇圧するには、約 10 分程度必要です。



▶ 10 分以内に指定の空気圧まで昇圧できない場合は

タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

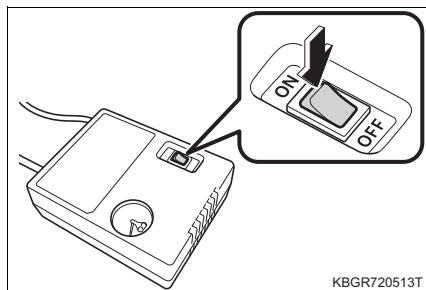
- 15 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を OFF にして、車両から取り外す

- 16 ただちに走行を開始する

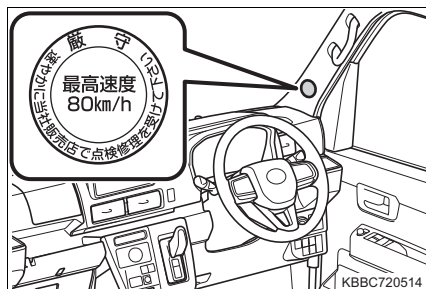
急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

- 17 10 分間または 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、パワースイッチを“ON”にする

- 18 コンプレッサーを車両に接続し、タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する
パワースイッチを“ACC”にする
コンプレッサーの電源を ON にして作動させたあと電源を OFF にしてから、空気圧ゲージで確認する



- 19 空気圧が 130 kPa 以上であれば、パンク応急修理を完了する
130 kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、コンプレッサーの電源を ON にし、昇圧する
- ▶ 空気圧が 130 kPa 以下に低下していたら
タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。
- 20 付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



- 21 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してダイハツサービス工場へ行きます
タイヤの修理・交換についてはダイハツサービス工場にご相談ください。



知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤパンク応急修理セットの点検について

- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに差し込み、パワースイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

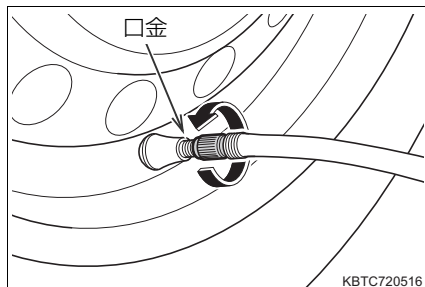
■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温が -30℃～60℃のときに使用できます。
- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。

- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しいパンク修理剤ボトルは、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■ 空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 警告

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ パンク修理剤について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんのお水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウインドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

⚠ 警告

- お車が進まず走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

EV システムが始動できないときは

EV システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものをご確認いただき、適切に対処してください。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

正しい EV システムの始動方法 (→ P. 77) に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。
- 電子カードキーが正常に働いていない可能性があります。* (→ P. 175)
- 駆動用電池が電欠している可能性があります。駆動用電池を充電してください。
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。* (→ P. 162)
- 電子カードキーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。
- 駆動用電池の温度が極端に低い (およそ -25℃ 以下) 可能性があります

* シフトポジションを P から切り替えることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 176)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 176)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

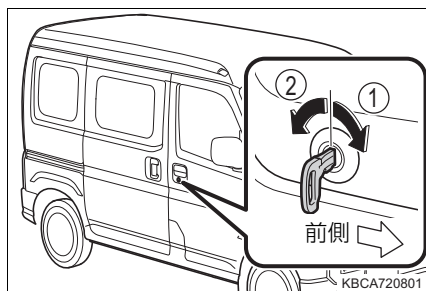
電子カードキーが正常に働かないときは

電子カードキーと車両間の通信が妨げられたり、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリースystemとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、EV システムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキー (→ P. 56) を使って次の操作ができます。

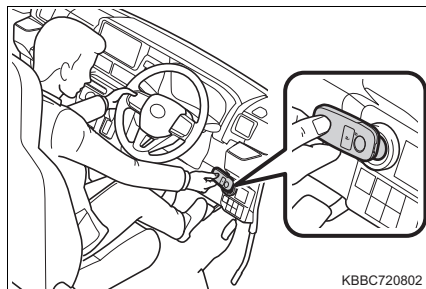
- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



EV システム始動の方法

- ① シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む

- ② 電子カードキーを図のようにパワースイッチに接触させる
パワースイッチの表示灯が緑色に点灯します。



- ③ パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

■ EV システムの停止方法

通常の EV システム停止のしかたと同様、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明している EV システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 131)

■ パワースイッチモードの切り替え

EV システム始動方法の手順 ③ で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→ P. 78)

■ 電子カードキーが正常に働かない場合

電子カードキーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください

補機バッテリーがあがったときは

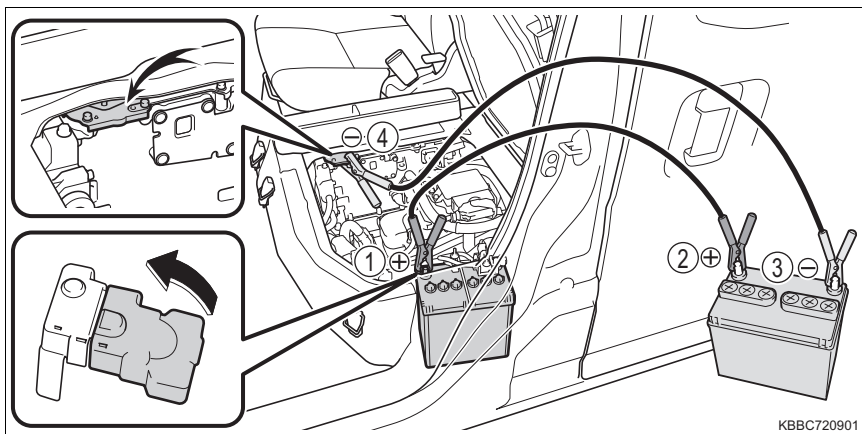
補機バッテリーがあがった場合、次の手順で EV システムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、EV システムを始動させることができます。

① 補機バッテリーの + 端子のカバーを開ける

② ブースターケーブルを次の順につなぐ

- ① 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの + 端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ
- ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



③ 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにし、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

④ 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチを一旦“ON”にしてから自車の EV システムを始動する

⑤ READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はダイハツサービス工場にご連絡ください。

⑥ 自車の EV システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す

⑦ + 端子のカバーを閉める

EV システムが始動しても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ **補機バッテリーあがりのときの始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ **補機バッテリーがあがったときは**

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはダイハツサービス工場
で点検を受けてください。

■ **補機バッテリーの充電について**

補機バッテリーの電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ
消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがって EV システムを始動できな
くなるおそれがあります。(補機バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ **補機バッテリーあがりのときや取り外し時など**

- 補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切り替えることができない可能性があります。そ
の場合は、後輪が固定されているため、後輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
 - 補機バッテリーがあがったあとの、最初の EV システム始動は失敗することがあります。2 回目以降の EV シ
ステム始動は正常に作動しますので、問題ではありません。
 - 車両は常にパワースwitchの状態を記憶しています。補機バッテリーあがりのとき、補機バッテリー脱着後は、
補機バッテリーを外す前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースwitchを“OFF”にし
てから行ってください。
- 補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

 警告

■ **補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生し
ないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- + 端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- 補機バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限 (LOWER LEVEL) 以下になったまま使用ま
たは充電をしない

■ **補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を
含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を
受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ **補機バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは**

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり
危険です。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

- EV システムが作動していないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 補機バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーと同等の性能のものを使用してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、車両の性能に影響するおそれがあります。
詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

点検口内のヒューズボックスにある救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

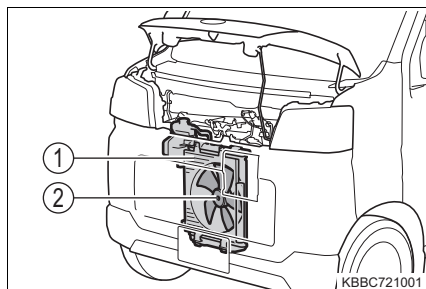
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「EV システム高温出力制限中です」が表示される場合は、オーバーヒートの可能性があります。

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にする
- 2 EV システムが作動している状態で、ボンネットと点検口を開ける

- 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているかを確認する
ファンが作動している場合：
「EV システム高温 出力制限中です」の表示が消えるまで待ち、EV システムを停止する
ファンが作動していない場合：
すぐに EV システムを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する

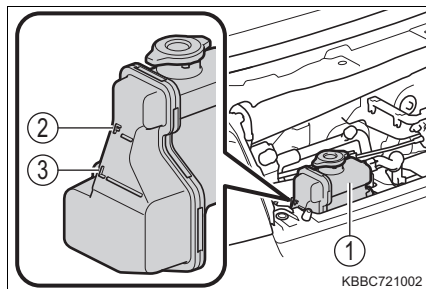
- ① ラジエーター
- ② ファン



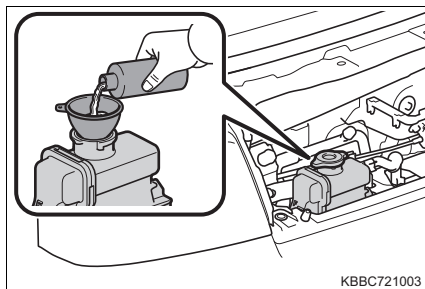
- 4 EV システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する
多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。

- 5 冷却水の量が「F」（上限）と「L」（下限）の間にあるかを点検する

- ① リザーバタンク
- ② 「F」（上限）
- ③ 「L」（下限）



- 6 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



できるだけ早く最寄りのダイハツサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 処置を行う前に

水温が高いときは、リザーバータンクのキャップを外さないでください。冷却水の圧力がキャップにかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ 点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ボンネット内、点検口内から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットと点検口を開けないでください。ボンネット内、点検口内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネット・点検口の注意事項も併せてお読みください。
- EVシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

EVシステムが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

EVシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、EVシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- ① パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する
 - ② タイヤ前後の土や雪を取り除く
 - ③ タイヤの下に木や石などをあてがう
 - ④ EV システムを再始動する
 - ⑤ シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む
- VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。

警告

■ 脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

10-1.仕様一覧

メンテナンスデータ 182

10-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
アミックスロングライフクーラント（高防錆力タイプ） 凍結保証温度 濃度 30% − 12℃	5.5

eAxle（EV トランスアクスル）

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
e- トランスアクスルフルード TE	3.7

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

注意

■ EV トランスアクスルオイルについて

指定銘柄以外のオイルを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード（DOT3 相当）

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	100

※ EV システムが作動している状態で、294 N（30 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 踏力 245N（25kgf）のときのノッチ※ 数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

補機バッテリー

型式
M-42

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
145/80R12 86/84N LT	12×4.00B	300 (3.0)	450 (4.5)

電球 (バルブ)

電球	W (ワット) 数
フロント方向指示／非常点滅灯	21
リヤ方向指示／非常点滅灯	21
後退灯	16
番号灯	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	電動機型式	駆動方式
S781V	1CG	2WD 車 (後輪駆動)

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

お問い合わせには、あらかじめ次の事項について確認の上、ご連絡願います。

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 9:00～17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



取扱説明書(抜粋版)は従来に比べ、大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴うCO2排出量の低減が見込まれます。
ダイハツは持続可能でより良い社会の実現にこれからも貢献していきます。

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて
掲載しております。(<https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html>)

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。